

授 業 科 目 の 概 要				
（高等教育推進機構提供科目）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	導入科目	初年次ゼミナール	＜授業形態＞ 演習 ＜授業目標＞ 中等教育までの比較的受動的な学習から、大学における能動的学習への学びの転換を目指す。 ＜授業計画の概要＞ 学びの転換を支える、多様な視点、適切な情報収集、学習研究の手法、自己表現のやり方や反省的な思考などに慣れさせるために、少人数教育の特性を生かし、レポートやプレゼンテーションなどの手段を通じて、自立的学習能力をもたせる。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
	教養科目	哲学と思考	＜授業形態＞ 講義 ＜授業目標＞ 基本的な問題の考察を通じて哲学の中心的な意義を理解させる。 ＜授業計画の概要＞ 哲学を知を愛し求める営みととらえた上で、知を求めるためには、どのようなことをどのように考えたらいいかを考察する。哲学とは何かという問題から始めて、哲学の方法と論理の関係、哲学的思考と科学的思考との比較、事実と経験の関係、真実の探究とはどのようなものかといった、基本的な問題を扱う。	
共通教育科目	教養科目	人間学入門	＜授業形態＞ 講義 ＜授業目標および授業計画の概要＞ この授業では、人間とは何かを考えるための幾つかの観点を紹介しながら、自分で人間を考えるための案内をする。言葉を話す人間、他者と理解しあうことを求める人間、身体としての人間、社会的存在としての人間、歴史的存在としての人間、自由な（自由を求める）存在としての人間、遊ぶ人間といった複数の視点から、「人間とは何か」という問題に迫っていく。「人間は…である」という知識を蓄えるのではなく、自分で「あれこれと考える」場として授業を行う。	
共通教育科目	教養科目	公共性と自由	＜授業形態＞ 講義 ＜授業目標および授業計画の概要＞ 「公共性」と「自由」という二つのテーマについていくつかの観点から考える。人々は慣習や道徳、法律や制度などを共有して生活する。この共有されたものの視点に立つて、人は欲望の暴走を抑制し、自分を自己として意識することができる。しかしこの共有されたものが暴走すれば、個人を否定する絶対の力さえ持つてしまうおそれがある。〈共有されたもの〉と〈個〉との関わりを、「公共性」と「自由」というテーマに即して考えていく。それは「市民として生きる」ために大切な思考を養う。	
共通教育科目	教養科目	中国の思想	＜授業形態＞ 講義 ＜授業目標＞ 長い歴史をもつ中国では数多くの思想が生みだされ、日本人にも大きな影響を与えている。儒家、道家、墨家などの個別の思想をわかりやすく概説する。同時に中国人全体の思想ともいえる死生観や魂魄概念に関しても紹介し、中国を理解させる。 ＜授業計画の概要＞ 孔子や孟子の儒家、老子や荘子の道家、墨子の墨家、韓非子の法家など個人の考えたすぐれた思想について概説する。同時に中国の人々が知らず知らずのうちに形成していった、いわば中国人全体の思想ともいえる死生観や魂魄概念（魂魄はどこにあるのか、魂の語源、肉体をぬけだす魂と髪型との関係、坐忘、体内に入りこむ悪霊、侵入する鬼霊、疾病観と魂、悪霊をはらう方法）などについても考察する。	
共通教育科目	教養科目	宗教の諸相	＜授業形態＞ 講義 ＜授業目標および授業計画の概要＞ この講義では、現代世界に大きな影響力を持つ西欧の文化をキリスト教とギリシア思想との出会いによって形成されたものという側面から見ていきたい。具体的には、ユダヤ教の伝統の中からキリスト教がどのようにして生まれてきたのか、ギリシア思想とはどのようなものであり、それとキリスト教との出会いの中から、どのような思想が生まれてきたのか、キリスト教化された中世ヨーロッパにギリシア哲学・ギリシア科学が導入された時の緊張関係の中から、大学という制度や、近代宇宙論、宗教改革などがどのようにして生じてきたのか等をみていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	造形と生活	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 美術を絵画や彫刻などの狭い領域でなく、広範な造形活動として捉え、色彩と形態による造形の中に美の本質を発見する力を養わせることが、豊かな人間性の涵養をはかるうえで重要である。本講義では、現代の美術作品をはじめ自然美、人間の美、都市美など造形が生み出す美の世界を学ばせるとともに、スライドやビデオによる国内外の美術鑑賞、歴史と文化の地である南河内の地の利を生かし、大学近隣に残された国宝、重要文化財の貴重な文化遺産の現地見学を交え、鑑賞眼と感性を磨かせる。	
共通教育科目	教養科目	音楽と生活	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 音楽を通して人はさまざまな美的感情を抱き、豊かな人間性の涵養をはかることができる。本講義では、音楽と人間生活、医療における音楽の効果などを学ばせる。また、歌唱や交響曲・オペラの鑑賞を通じて音楽を愛好するところの醸成、感性や精神性の高揚に資する。	
共通教育科目	教養科目	心理学への招待	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 心理学は、人の行動や行動の背後にある心のはたらきを明らかにしようとしている学問分野ですので、心理学を学習することによって、なぜ人がそのような行動をするのか、あるいは、なぜ人はそのように考えるのか、といったことが分かるようにことを目標としています。 〈授業計画の概要〉 #1-2 心理学とは何か -歴史と方法- #3-4 比較行動 #5-6 学習 #7-8 認知 #9-10 発達 #11-12 パーソナリティ #13-14 社会 #15 まとめ	
共通教育科目	教養科目	臨床心理学への招待	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 心の問題をはじめ、人が抱える多様な問題に対し、どのように対処できるかを模索してきた一つの学問が臨床心理学である。その臨床心理学の歴史と理論を概観し、その実践としての心理療法の概要を知ることを通して、人間観を養うことを目標とする。 〈授業計画の概要〉 #1 臨床心理学とは何か #2-4 臨床心理学の歴史 #5-9 臨床心理学の理論（フロイト、ユング、ロジャーズ） #10-14 心理療法について #15 まとめ	
共通教育科目	教養科目	科学と芸術と人生	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 講義形式により、人類史における自然観・世界観の変遷が、文学作品や絵画等の芸術作品のなかにどの様に反映されているかを概観し、また個々の科学者・芸術家の様々な生き方を通じて、科学・芸術とヒューマニズムとの重要な関わりを考える。さらに講義を通じて、日本国憲法の崇高な理念の今日的な意義への理解を深め、主権者としての自覚を持って生きる人間としての世界観・人生観の形成のために共に考えてゆくことを目標とする。	
共通教育科目	教養科目	言語学への招待	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 ことばというのは、単にコミュニケーションの道具であるだけではなく、さまざまな側面を持ち合わせた現象として捉えることができます。それらを対象として研究する学問が、言語学です。この授業では、言語学の各領域がどういう現象に対してどのようなアプローチを行うのか、そしてこれまでにどのような成果をあげてきたのかを、主に英語と日本語の具体例に基づいて、概観します。この授業を通して、ことばに関する新たな体験・発見をしてもらえればと思います。	
共通教育科目	教養科目	日本語学への招待	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 誰もが使わざるを得ない敬語の基本を理解し運用できるようにさせるとともに、敬語（日本語）はどのような理由によってどう変化してきたのか、そしてこれから変化していくのか、またその中で正しいことばとは何なのか等について考えることを目標とする。具体的には、文献・視聴覚資料や学生自身の内省をもとに、古代日本語・現代日本語それぞれにおける敬語の様相を提示し、また自ら記述させ、その変化の方向性を考察させる。	
共通教育科目	教養科目	英語学への招待	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 ことば全般を対象とする学問である言語学の中でも、特に英語を対象とする部門が英語学である。この科目では、主に講義形式で英語学の基本を紹介していく。これまで学習してきた英語の知識を活かしながら、さらに学問的な興味へと発展させていくことを目標とする。授業の中では日本語との比較を通してことばの持つ普遍性に気づき、さらに相違点を考察することによって、英語とその他の言語を含めたことば全般に対する科学的な観察力を培っていくことも目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	関西文学論	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 関西に関わりのある古典から近代までの文学作品を取り上げ、さまざまな視角からその特質について検討する。「関西文学」に対する知見を広めるとともに、「地域文学論」という方法の可能性について考察することを目標とする。一般に文学作品の特質は作家の個性や時代性に還元されるが、「関西」という地域を視点にして、どのような特質が抽出できるかを考えることにしたい。	
共通教育科目	教養科目	日本の文学	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 日本の文学、特に著名な古典を取り上げ、その古典が、いかに享受されて、現代においてもなお「古典」たりえているのかについて、具体の作品を取り上げ講じる。また享受史の一環として、古典の絵画化についても検討する。高校までの古典の学習とは違い、作品そのものの理解はもとより、各時代時代にその古典がどのように読まれ、理解されてきたのか、享受史の視点を導入して古典を考える。古典（原典）を古典（注釈）で理解することを目指す。	
共通教育科目	教養科目	日本の歴史と文化	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 江戸時代の演劇（浄瑠璃・歌舞伎）と世相との関係を、当時の現代劇である世話物を中心として、具体的な作品に即して考える。浄瑠璃・歌舞伎についての正確な知識を得て、江戸時代の歴史の中における演劇文化を理解し、その位置づけや世相の反映を読み取る。演劇に関連する江戸時代の小説（浮世草子・読本等）にも言及する。講義形式の授業であるが、ビデオやDVDの視聴を交える予定であり、理解度を確認するための小テストを随時行う。	
共通教育科目	教養科目	古典芸能の世界	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 日本の古典芸能、とくに近世演劇である浄瑠璃・歌舞伎を扱う。それに関連して、中世の演劇である能や狂言にも触れる予定である。現代において、日常生活とかけ離れたものとなってしまっている浄瑠璃や歌舞伎が、江戸時代にはまさに生活に密着したものであったことを確認し、現代に通じる部分が多いことを理解して行く。講義形式で授業を行うが、ビデオやDVDの視聴を交える予定である。また、質疑応答や小テストによって、より理解を深めるよう進めて行く。	
共通教育科目	教養科目	世界遺産と文芸	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 日本の世界遺産のうち、とりわけ「古都奈良の文化財」や「法隆寺地域の仏教建造物」、また「古都京都の文化財」「紀伊山地の霊場と参詣道」「琉球王国のグスク及び関連遺産群」を対象に、個々の指定地に関する歴史や伝承を紹介し、その文化的価値への知見を深めると共に、環境保全と文化継承の意義について考える契機とする。その一方で、歴史学・文学・美術・民俗学…等々の学問領域を超えた、一地域を対象とする脱領域的研究の可能性についても考えることとする。	
共通教育科目	教養科目	世界の文学	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 西洋を中心として、民話・伝説等の伝承文学を採り上げ、その文体を徴表として作品のテーマを解説する。それとともに、学生には、複数のテキストを読ませて、同一の伝承作品が、時代と編者のイデオロギーに応じて、いかように文体を変えテーマを変奏させてゆくかを観察させる。さらには、作家が創作した伝承文学的スタイルの芸術作品と本来の伝承文学との比較も行わせる。	
共通教育科目	教養科目	中国古典文学への招待	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 『論語』の孔子はツイッターのようにつぶやき、孔子の道統を受け継ぐ孟子は『孟子』において絢爛豪華な弁論術を駆使する。二人はなぜこうも違うのか？世をすねて訥々と反社会的な言論を連ねていたはずの老子の思想は、なぜ古代において帝国統治のイデオロギーとなったのか？遊説術の教科書を書いた韓非子はなぜ皮肉にも遊説先で殺されねばならなかったのか？前中国国家主席江沢民氏は、来日中に「歴史を以って鑑（かがみ）とする」と教訓を垂れたが、なぜ中国人はこうまで歴史を重視するのか？実際に会ったらとても付き合にくい人だったであろう杜甫はなぜあんなに美しい詩を書けたのか？などなど、中国古典文学に関するさまざまな疑問を原典に即して考えてゆく。受講生には中国語の基礎知識を身につけてもらい、古典を中国語で朗読し、味わってもらう計画である。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	ヨーロッパの文学	〈授業形態〉講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 古典古代から近代までのヨーロッパの文学作品を毎学期4篇程度とりあげ、1篇につき3～4回ずつ講義する。受講者に翻訳本をあらかじめ読んできてもらい、ミニ課題（質問・感想を含む）を提出してもらう。そしてその提出課題を踏まえ、受講者との対話を重視しつつ、内容（作品全体、わかりにくい部分）についての解説をするほか、文化・宗教・社会史的背景や図像学・シンボルなどの常識、成立事情、さらには受容や再解釈・改作の歴史について紹介する。受講者が西洋の芸術・文化・社会への関心を広げ、自立した学びの前提となる知識を獲得することを目標とする。	
共通教育科目	教養科目	世界の中のフランス語圏	〈授業形態〉講義 〈授業目標〉 現代世界の多様性と複雑さを、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ、オセアニア、中東、アジアに広く分布するフランス語圏を通して、特に言語と植民地化の問題を中心にさぐる。 〈授業計画の概要〉 以下の項目を、映像や音資料などを積極的に駆使して講義する。（オムニバス方式／全15回） （192 マリ-フランソワーズ・パンジェ／7回） （394 高垣 由美／8回） ・フランス語圏の定義・地理的・歴史的状況（分布、植民地化の経緯） ・フランス及びフランス語とのつながり ・フランス語圏の現状：音楽、文学など	オムニバス方式
共通教育科目	教養科目	物語文学を読む	〈授業形態〉講義 〈授業目標〉 「物語」とは何か。物語作品を読み解きながら、「物語」の生まれた時代背景、歴史的変遷とその意義を学び、「物語」の本質を明らかにする。 〈授業計画の概要〉 ひとつの物語作品を中心的に読み解いてゆく。対象とする物語作品によっては、解釈のあらわれとしての挿絵を取り上げる場合がある。また、理解を深めるために展覧会見学などの実習を行い、展覧会レポートを自由課題として課すことがある。	
共通教育科目	教養科目	文学と社会	〈授業形態〉講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 芸術が時代・社会の変動と対峙しつつ、自ら変化して新しいスタイルを生み出してゆくダイナミズムについて、文学の領域を中心に考察する。文学に関しては、学生に作品の抜粋を読ませながら、文学者の時代との苦闘の痕跡を確認させ、また美術や建築と音楽の領域においては、写真やDVD・CDなどの映像・音響メディアを多用しつつ、葛藤と創造という芸術家の精神の運動をたどらせる。	
共通教育科目	教養科目	文字情報の伝達と文化	〈授業形態〉講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 日本語は漢字、ひらがな、カタカナという3種類の文字を使い分けるという点において、地球上にあって珍しい言語である。これは無文字社会であった時代に、アジア大陸から漢字が流入したために起きた現象であるが、それでもなお、漢字流入によってのみ発生した現象とはいえない。授業では、こうした漢字を中心とした、日本の文字情報伝達の多様な状況や用例を中心にして、そうした文字によって築き上げられてきた文化の諸相をよみひらいてゆく。	
共通教育科目	教養科目	近代を問う	〈授業形態〉講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 「近代化」はそれまで多様で、不連続であった地球上の人類のあり方に様々な意味で、深く、かつ長期的な影響を与えることとなった。この授業では、この西洋的近代化を考えるにあたって、様々な近代化の影響を、具体的なレベルで考えながら、これからの世界における統一化と多様化の可能性の問題を考えてゆく。具体的な切り口としては、都市、人種、貧富の差、資源の問題など様々な視点が考えられる。この授業では複数の講師が、それぞれ専門的な分野から近代化についての議論を提供し、講師間、学生間のディスカッションなども行いながら行われる。	共同
共通教育科目	教養科目	コミュニケーションの諸相と文化	〈授業形態〉講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 コミュニケーションのあり方をさまざまな視点から考えながら、コミュニケーションの複雑と難しさを認識することで、より高度なコミュニケーションが可能となるような視点を考える。なぜ我々は人に向かい、人と語り合い、人を知りたがるのか。なぜ我々は一人になると、存在の意味を失ったように感じるのか。また、言葉と我々が住む社会はどのように関係しているのか。社会との、あるいは世界とのコミュニケーションはどのように構成されているのかを考え、自覚的に論じられるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	スポーツの構造	〈授業形態〉講義 〈授業目標および授業計画の概要〉「スポーツ」自体を理解することを目的とし、「キネモルフォロジー（運動形態学）」の視点よりスポーツの全体像を捉え、スポーツの分類と体系化、スポーツ技術の構造分析、スポーツ技術の習得過程とパフォーマンスの向上、スポーツルール（競技規則）と技術の関係、スポーツにおける戦略・作戦・戦術の成り立ちなどを講義することにより、基礎的で実践的な「運動理論」の提供をめざす。	
共通教育科目	教養科目	スポーツと社会	〈授業形態〉講義 〈授業目標および授業計画の概要〉「スポーツは社会を映す鏡」であると言われるように、スポーツはそれがはぐくまれた時代や社会における人々の価値観や人間関係のあり方を反映している。この講義では、スポーツを単なる身体運動ではなく、人間社会が生みだした文化の一形態としてみなす立場から、スポーツと社会の関わりを考察する。とりわけ近代社会におけるスポーツのあり方を、さまざまなトピックを用いて理解させる。	
共通教育科目	教養科目	日本文化学	〈授業形態〉講義 〈授業目標および授業計画の概要〉日本の中古・中世に成立した説話集を対象として、個々の説話の精読をはかると共に、それら説話の生成と伝承を支えた人々の意識を探る。事実性と伝承性を基本的属性とする説話は、時に史実離れを起こしたり、荒唐無稽に流れることもあるが、人々の共同意識と乖離して存することは難しい。よって、説話が信頼すべき一級史料以上に、当代の人々の世界観を雄弁に伝える事例も少なくない。本講義では、如上の観点から説話・説話集を講じ、現代の文化との共通性と異質性を認識する契機としたい。	
共通教育科目	教養科目	美術史学入門	〈授業形態〉一部実習的要素を取り入れた、講義形式の授業。 〈授業目標〉美術史学の意味、基礎的方法論、美術鑑賞のおもしろさを、特に東洋美術（中国美術）を通じて、理解し学ぶことを目標とする。 〈授業計画の概要〉各回の授業内容は、以下のとおり。1-2：ガイダンスおよび美術史学の意味、東洋美術の特異性、3-5：山水画と水墨画、6-8：院体画と写実主義、9-11：文人画の流れ、12-13：書の歴史・見方、14-15：中国陶磁器の見方	
共通教育科目	教養科目	新西洋事情	〈授業形態〉講義 〈授業目標〉福沢諭吉は彼の『西洋事情』で、西洋を模範とした国づくりを進めるために、「歴史を読むに若くものなし」といった。爾来わが国の研究者は西洋の歴史書の消化に勤めた。しかしこれが仇になった。西洋人が体裁を繕うために自国の歴史を書いていたとしたら、どうなるだろう。歴史書の行間を読み、歴史書とは異なる西洋の姿を明らかにし、日本の再生のためのヒントを得たい。 〈授業計画の概要〉日本が西洋の実情をどのように読み違えてきたのかを具体的に説明する。特に誤解の影響が甚大であった教育、経済、社会保障、人的交流、組織原理について詳述する。	
共通教育科目	教養科目	ヨーロッパ事情	〈授業形態〉講義 〈授業目標および授業計画の概要〉前半において、ヨーロッパの現代社会のさまざまな問題（政治、経済、環境、教育、メディアなど）を講述する。後半においては、ドイツ語圏を中心にしたヨーロッパ文化と社会（文学・出版・言語・伝承など）の形成過程を扱う。ヨーロッパの中の諸地域の比較、日本やアメリカなどとの比較、さらにはまた文化交流にも目を向けながら、文化の古層にまでさかのぼって考察する。受講者が国際情勢への関心を高めるとともに、自立した学びの前提となる基礎知識を獲得できることを目標とする。講義形式を基本とするが、質疑応答を充実させて、双方向的な展開を工夫する。	
共通教育科目	教養科目	地域文化学	〈授業形態〉講義 〈授業目標および授業計画の概要〉地域、とりわけ本学が位置する堺・南大阪地域の文化について、さまざまな視角から検討する。「文化」を文学や歴史を中心とする人文科学の扱う狭い意味に考えるのではなく、社会科学や自然科学、また行政の立場からの提言や地域活動の実践報告など、あらゆる分野についての知見を広げ、「総体としての地域」を知ること为目标とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	比較文化社会論	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 毎学期1つずつテーマ（たとえば、「同性愛」「ジェンダー」「書物・メディア」「笑い」など）を設定し、そのテーマに関する文化社会史について、ヨーロッパに軸足を置きつつ、アメリカや日本・アジアなど他の文化圏と比較しながら考察する。さまざまな時代・地域・ジャンルの著作物（文学、思想、歴史、法律、自然科学、マスコミ、ウェブ、サブカルチャーなど）を読み、また関連する文化的・社会的背景を丁寧に説明しながら講義を進めていく。1つの物事を多様な視点から眺めることを学び、人間・社会に対する深い洞察力を涵養することを目指す。	
共通教育科目	教養科目	ヨーロッパの文化と社会	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 現代ヨーロッパ社会のさまざまな問題（政治・経済・環境・教育・マイノリティなど）の概略を紹介・解説したあと、その背景について、ヨーロッパの文化の古層にまでさかのぼって、歴史的に考察を深めながら講義する。アメリカとヨーロッパのものの考え方の違いとその背景を理解させ、最新のヨーロッパの社会の動きや日欧関係などに関心を持たせることを目的として、現代ヨーロッパ社会の問題を考察する。	
共通教育科目	教養科目	現代のドイツ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 現代ドイツの社会におけるさまざまな問題（政治・経済・犯罪・教育など）の概略を紹介し、それをふまえてとくに若者の文化について解説する。現在の若者が社会との関係を結ぶとき、音楽を通してそれをおこなうのがひとつの特徴である。したがって、若者と音楽の関係についてくわしい情報を提供し、細かな問題に立ち入って解説することによって、ドイツ社会の最新の動きに関心を抱かせるとともに、現代ドイツの社会問題についての理解を深める。	
共通教育科目	教養科目	アジアの歴史と文化	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 東アジアはこれまで、日本にとって最も身近な周辺環境であり続けてきた。近年その重みは一層増しつつある。生産技術の獲得、国家の形成、文化の成り立ちなど、日本は中国から特に歴史的に多大な影響を受けてきたことに異論はないだろう。そこで、講義形式のこの授業では、中国の歴史と文化を中心に据えて考察を進める。史料、図版、エピソード等を紹介し、東アジア世界のベースに共通して流れる歴史や文化に対する理解を深めることをめざす。	
共通教育科目	教養科目	歴史を学ぶとは	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 歴史とは何か、歴史的にモノを考えるとはどういうことか、そのような問題を考え、現代社会のなかでの歴史学の持つ意味を考察することを目的とする。 〈授業計画の概要〉（オムニバス方式／全15回） （119 住友 陽文／7回）・はじめに、・現代社会と歴史的関心、・歴史認識がしめす社会問題・歴史を考えるとどうということか、・歴史を知ることで見えてくるもの （619 山崎 善弘／8回）・歴史研究の現状と問題点、・歴史研究の新視点、・歴史研究の実践・まとめ	オムニバス方式
共通教育科目	教養科目	国際文化の視点	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 文化とは、学術文芸だけでなく、人々の日々の暮らしであるという文化観に立ち、第2次世界大戦後の国際社会の経済・政治秩序の形成に焦点をあて、その過程で進んだグローバル化と、人々の暮らし（文化）の破壊（貧困や戦争）をふりかえり、さらにはその克服を展望する新しい動きにも理解を開く。15週でとりあげるテーマ群は以下のとおり。南北問題の現在：ブレトン・ウッズ体制と国連開発計画：政府開発援助と対外債務累積：構造調整政策と人々の暮らし：移動労働者の増加：WTOラウンド交渉と現代世界。	
共通教育科目	教養科目	文化人類学入門	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 今日の世界は、グローバル化が進み国境を超えた人やモノの移動が活発になっている。その結果、「われわれ」とは異なる慣習を有した「彼ら」（他者）と遭遇する機会も増えている。その際に、「われわれ」のやり方を自明なものと考え、「彼ら」のやり方を奇妙なものに見なすだけでは、両者の軋轢が深まるばかりである。文化人類学は、異なる慣習を有した人びとがどうすれば共存していけるのかを探究してきた学問である。この授業では、文化人類学の基本的な考えを、世界中の「奇妙な」慣習を取り上げながら説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	大阪府立大学の歴史	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 本学の歴史を振り返ることにより、学びの場としての「大学」の意味と、大学で「学ぶ」ことの意味について理解することを目標とする。本学は、明治16（1883）年設置の獣医学講習所に淵源を求めることができる、府下有数の大学の一つであり、こうした本学の歴史を振り返ることにより、社会・市民と共に歩む「大学」のあり方について考察を深め、さらには本学で学ぶことの意味とその意義を、自らの問題として理解できるよう講述形式による講義を行う。	
共通教育科目	教養科目	現代日本の政治と経済	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 戦後の復興と高度経済成長を経て、現代へといった日本社会の変化の過程を辿る。そのさい、日本の社会および政府が、おのおの時期に直面したさまざまな国内外の問題と、それに対する政府の対応を、とりわけ経済的な側面を中心に紹介してゆくなかで、最低限の経済用語やインフレ、デフレ等、経済問題の基本的な内容を事例に則して理解することを目的とする。	
共通教育科目	教養科目	憲法	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 日本国憲法の成立事情および近代人権思想を基本的な視角にすえて、広義の憲法および日本国憲法をめぐる様々な問題を、相互に関連するものとして理解できるように導く。日本国憲法の解釈に際して 〈授業計画の概要〉 は、現実の社会の動きと連動させて、自らの問題として判例と学説の検討が行えるような教養を形成させる。	
共通教育科目	教養科目	暮らしと法律	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 アパート賃借、本を買う、交通事故、相続、友人のCDを返さない、買った電気製品が壊れていた等、私たちの生活は法律と深く関わっている。講義では、市民生活に特に関係の深い民法をはじめとする私法上の諸ルールを簡潔に解説する。同じく「～すべき」という規範をもつ道徳とは、違反した場合に国家的制裁（強制執行、損害賠償、行為の無効など）がある点で異なる。ルールとその違反の効果について大要を学ばせる。	
共通教育科目	教養科目	経済学の歴史と思想	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 本講義では、「経済学」という学問がどのように誕生し発展したのかについて、その歴史とそれを支える思想を理解することを目標とする。 〈授業計画の概要〉 講義は以下の内容について講義を行う。・経済学の誕生（アダム・スミス）・経済学の確立（マルサスとリカード）・経済学の危機（ミル）・新しい経済学の誕生（ジェヴォンズとマーシャル）・経済の危機（ケインズ）・企業家とイノベーション（シュンペーター）・新古典派総合とケインズ批判（サミュエルソンとフリードマン）・経済学と現代”	
共通教育科目	教養科目	経済史概論	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 産業革命以降を中心に、現代に至るまでの経済社会の推移を概観し、資本主義社会の成立・発展・変容を考える。とくに各国・地域を比較検討しながら、それぞれの特徴を歴史的視点から理解する。 〈授業計画の概要〉 以下の内容で講義を行なう。 ・産業革命前夜…大航海時代と商業革命 ・産業革命…イギリス、西欧(フランス・ドイツ等)、アメリカ、アジア(日本等) ・世界恐慌 ・第二次大戦後の経済秩序	
共通教育科目	教養科目	暮らしと政治	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 社会の仕組みを作りだす集合的な意思決定としての政治の意義を認識させる。政治学における基礎的な視点や概念のいくつかを、具体例を挙げながら解説することを通じて、新聞やテレビなどで報道される政治の動きを自らの生活と結びつけて理解し、考えていく力を身につけさせる。 〈授業計画の概要〉 以下の項目を講義する。 ・「政治」のとらえ方・政治思想（民主主義、保守主義・自由主義・社会主義） ・政治制度（議会、選挙、政党制、官僚制） ・政治意識と投票行動 ・政治的アクターと政策決定過程 ・民主政治の基礎としての地方自治	
共通教育科目	教養科目	問題群としての社会	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 統的な意味での「社会問題」だけではなく、人々が目撃しつつある新しい諸現象をも含めて、さまざまな角度から社会生活そのものを「問題群」として捉え直し、社会の構成員たる現代人にはどのような意識や態度の形成が求められるのかについて、具体的な素材をまじえながら考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	変容する社会と社会学	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 近代化以降の社会がそれ以前に比べて質的にも量的にも大きな変化変容を遂げたことは周知の事実であるが、とりわけ現代社会は変化のさらなる加速とも相俟って、いっそう複雑で予測の難しい状況を生み出している。こうした状況に対して社会学や隣接領域の諸学は、どのような概念や考え方をを用いて取り組もうとしているのか、これまで培われてきた基本的な概念や研究テーマを紹介しながら、現代社会とその変容を読み解くための手がかりを探る。	
共通教育科目	教養科目	医療と社会	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 少子高齢社会の進展の中で、保健・医療・福祉は、これまでそれぞれの領域で果たしてきた役割だけでなく、社会的に統合されたサービスとして提供する必要性が生じてきている。本講義では、医療の社会的な役割をウィルヒョウの社会医学を基本に解説しながら、医療における関連職者の役割や社会保障システムを理解させる。	
共通教育科目	教養科目	現代の学校	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 現代の学校や子どもに関する基礎的な事項について理解を深めるとともに、学校や子どもをめぐる現代的な問題について考察するための知識を得ることを目標とする。主として教育学関連分野の教員がオムニバス形式で授業を担当する。また、受講生の発表をもとに、グループでディスカッションを行う。現代の学校や子どもに関する基礎的な事項に概説したあと、例えば、学校改革、教師をめぐる問題、子どもをめぐる問題を論じる。	
共通教育科目	教養科目	人権問題論A	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 人権問題について、様々な観点から検討することによって、理解を深めさせる。複数の講師が以下のテーマについて交代で講義する。 (オムニバス方式／全15回) (343 亀喜 信／5回) 多文化主義と先住民民族(アイヌ民族)の権利、まとめ (19 伊田 久美子／1回) 現代社会における女性の人権 (618 森田 泰久／2回) 働く権利、労働者の権利 (610 白木 正俊／3回) 近代都市部落の生活構造と社会政策 (192 マリ-フランソワーズ・パンジェ／1回) 言語は、人権？ (212 細見 和之／1回) 生命の尊厳について-中島みゆきさんの歌にそくして (172 中山 徹／1回) 現代の貧困・低所得問題と人権 (260 山野 則子／1回) 児童虐待とその背景	オムニバス方式
共通教育科目	教養科目	人権問題論B	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 日本の大きな社会問題の一つである部落問題を中心にして、人権について理解を深めさせる。複数の講師が以下のテーマについて交代で講義する。 (オムニバス方式／全15回) (343 亀喜 信／1回) 生存権について (179 西田 芳正／2回) 同和教育・人権教育論 (612 手島 一雄／4回) 部落問題の歴史学習から何が学べるか？ (616 日野 謙一／4回) 「差別の現実と課題」について考える (607 奥山 峰夫／4回) 部落問題解決の到達段階と今日の課題	オムニバス方式
共通教育科目	教養科目	ジェンダー論への招待	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 ジェンダー(社会的文化的性)は私たちが当たり前と思ってきた性に関する様々な思いこみを問い直すキー概念である。「性」の社会的意味を本格的に学問領域に持ち込んだ女性学の成果を踏まえ、「性」をめぐる様々な社会問題への新たな視点を提供する。この授業は女性学研究センターが中心となって運営する。 (オムニバス方式／全15回) (19 伊田 久美子／5回) イントロダクション、労働とジェンダー (359 熊安 貴美江／5回) スポーツとジェンダー (281 浅井 美智子／5回) 社会思想とジェンダー、まとめ	オムニバス方式
共通教育科目	教養科目	障害者と心理	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 障害者の心理社会的問題に関する基礎的知見を理解すること。授業形態：学内外の担当者によるリレー講義。ビデオやスライド等の視覚教材を用いる。 〈授業計画の概要〉 障害の定義に関する様々な立場、障害者の自己とアイデンティティ、ライフコース、ノーマライゼーションや自己決定を巡る言説、リハビリテーション心理学や社会心理学における知見の批判的検討。1. 障害の基礎(オリエンテーションを含む)＊5回、2. 身体、知的、精神障害者の心理＊5回 障害児の心理＊4コマ、4. まとめ＊1回	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	バリアフリー論	〈授業形態〉講義 〈授業目標および授業計画の概要〉社会にはさまざまなバリア（障壁）が存在している。例えば障害者や高齢者、またベビーカー利用者などにとって、段差のない道路や多目的トイレ、エレベーター設置など、物理的なバリアの解消によって社会参加度が変わる。さらに、社会的弱者のコミュニティ参加のバリア、多様な人々のコミュニケーションのバリアなど、その意味は広い。よって、講義形式を基本とし、人の生きやすさを多角度から考えるために複数教員、ゲストスピーカー（福祉、建築、環境、心理など）の協力も得ながら、学生自身の内なるバリアについても考える機会とする。	
	教養科目	環境・生命・倫理	〈授業形態〉講義 〈授業目標および授業計画の概要〉科学技術を手にした人間が、人間を取り巻く自然環境と、人間の内なる自然である生命に対して、どのように関わっていけばよいのかを、倫理的な側面から幅広く考察する。それを通じて、グローバル時代における人間の価値観や社会のあり方を提言していく。「環境」と「生命」をキーワードに、21世紀の人間の生き方を問う。 （オムニバス方式／全15回） （247 森岡 正博／4回）現代のバイオテクノロジーの進展が、人間にとってどのような倫理的な問題を提起しているかを学習し、人間と生命と環境と科学技術の関係を把握する。その点を考察する課題を与える。 （608 樫本 喜一／4回）現代の巨大技術の代表である原子力技術が、どのような歴史を経て社会に組み込まれるようになったか、そしてそれが人間社会と自然環境にどのような影響を与えるのかを理解する。その点を考察する課題を与える。 （281 浅井 美智子／4回）内なる自然である生命を操作する技術が、人間の家族と社会システムに対して与える影響を、倫理的側面から解明する。それをとおして、グローバル時代の生命観を考える。その点を考察する課題を与える。 （621 吉本 陵／3回）人間と自然環境がどのように関わっているのか、将来世代の人類への責任はあるのかについて、現代の環境哲学の視点から掘り下げていく。その点を考察する課題を与える。	オムニバス方式
共通教育科目	教養科目	自然と科学	〈授業形態〉講義 〈授業目標および授業計画の概要〉この講義では、様々な科学の視点から、自然と人間との関わりについて考えさせる。 （オムニバス方式／全15回） （55 岡 勝仁／4回 平成24～26年度担当）（343 上浦 良友／4回 平成27年度担当）緒論、総論、科学と文学、ゴムの科学と人との関わりの物語 （341 上浦 良友／2回）プラズマ科学がもたらしたもの （102 佐藤 正明／1回）身の回りにある化学物質総論 （391 陶山 寛志／2回）人類が創り出した化学物質 （408 田中 良晴／2回）ライフサイエンスの光と影 （606 岡本 健二／1回）惑星地質学入門 （92 児玉 靖司／1回）原子爆弾の誕生 （170 中村 洋一／1回）脳の地形図 （605 大崎 茂芳／1回）クモの糸から学ぶサイエンスの世界	オムニバス方式
共通教育科目	教養科目	自然科学への招待	〈授業形態〉講義 〈授業目標〉自然の織り成す森羅万象は「不思議」と「魅惑」に満ち溢れている。現在の私たちの「豊かな」生活は自然を知り、活用することで成り立っている部分が大い。そのような自然の仕組みを、原子、分子、遺伝子、細胞などのミクロの世界から、生物、地球、宇宙などマクロの世界までに渡り、数学、物理、化学、生物など「科学の眼」を通して易しく解説する。各々の分野の学問の方法論の共通性と違いも学ばせる。 〈授業計画の概要〉（オムニバス方式／全15回） （99 斎藤 憲／前期1回）、（208 古田 雅一／1回）、（522 上田 龍雄／1回）、（341 上浦 良友／1回）、（331 数見 哲也／1回）、（210 星野 聡孝／1回）、（42 梅澤 憲司／1回）、（408 田中 良晴／前期4回、後期4回）、（12 石井 孝定／1回）、（236 宮本 健助／1回）、（283 浅田 博／前期2回、後期2回）、（551 有江 隆之／後期1回） 各講師がそれぞれ下記からテーマを選定し、講義を行う。 テーマ：歴史に見る科学と技術の関係、自然科学と人間環境、くらしのなかの放射線利用、分子の成り立ち、最先端技術と半導体、ブラウン運動、極微の世界を見る、表面科学、自然観の形成、生物と遺伝子、藻類から燃料、植物と環境、科学の眼で「脳の秘密」に迫る	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	社会の中の数学	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 現代の社会において、数学は思考の道具として様々な仕事を支援し、また、数学の応用によって実現された技術が現代人の生活を支えている。この授業では、数学が応用されて社会のために役立っている例を紹介することを通して、現代社会における数学の重要性を理解させることを目標とする。 〈授業計画の概要〉 解析学、幾何学、代数学、統計学などの数学の様々な分野が応用されて役立っている例を、その基盤となっている数学的手法や理論とともに講義する。 担当教員：（30 入江 幸右衛門、43 大内 本夫、71 壁谷 喜継、85 栗木 進二、129 高橋 哲也、148 田畑 稔、230 丸田 辰哉、251 山口 睦、331 数見 哲也、333 加藤 希理子、345 川添 充、384 城崎 学、477 松永 秀章、479 松本 和子、502 山岡 直人、517 綿森 葉子、527 嘉田 勝、537 田中 秀和、549 吉富 賢太郎、561 川上 竜樹、563 川野 秀一） 実施形態：上記教員の中から毎年度5名の講師を選び、そのうちから代表教員1名を選定する。各講師がそれぞれテーマを選定し、3回ずつ講義を行う。全15回のオムニバス形式で講義を行う。	オムニバス方式 年度によって交代で担当
	教養科目	数学の視点	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 数学はこれまでその歴史の中で、様々な数学的概念を生み出し、そして発展させてきた。この授業では、数学における基本的な概念を題材にして、現代数学が様々な数学的概念をどう発展させてきたかとともに紹介することを通して、数学的なものの見方を理解させることを目標とする。 〈授業計画の概要〉 以下のテーマについて、現代数学がそれらをどのように捉えているのか、 数学の歴史にも触れつつ講義する。 （オムニバス方式／全15回） 数とは何か（5回） 空間とは何か（5回） 無限とは何か（5回） 担当教員：（30 入江 幸右衛門、43 大内 本夫、71 壁谷 喜継、85 栗木 進二、129 高橋 哲也、148 田畑 稔、230 丸田 辰哉、251 山口 睦、331 数見 哲也、333 加藤 希理子、345 川添 充、384 城崎 学、477 松永 秀章、479 松本 和子、502 山岡 直人、517 綿森 葉子、527 嘉田 勝、537 田中 秀和、549 吉富 賢太郎、561 川上 竜樹、563 川野 秀一） 実施形態：上記教員の中から毎年度3名の講師を選び、そのうちから代表教員1名を選定する。各講師がそれぞれテーマを選定し、5回ずつ講義を行う。全15回のオムニバス形式で講義を行う。	オムニバス方式 年度によって交代で担当
	教養科目	統計学入門	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 人文科学、社会科学、生物学などにおいて得られる種々のデータをどのように扱い、その結果、どのような結論が得られるかを分析するための手段として統計学は重要である。この授業では、統計学の基本的な考え方、手法を講義し、具体例を通して、データを分析する能力を養う。 〈授業計画の概要〉 最初に、データの整理、代表値、平均、分散、相関係数について講義し、次に、母集団と確率変数、代表的な離散型確率分布、連続型確率分布について講義する。また、点推定、区間推定、仮説検定に関する基礎事項について講義する。	年度によって交代で担当
	教養科目	科学の歴史	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 講義形式により、古代から現代に至る科学の発展過程について、その背景となる世界全体の歴史の流れとの関連を明確にしながら、人類史における自然観・世界観の変遷も含めて概観する。過去の科学史の学習という枠内に留まらず、今後、科学はどのように発展してゆくのかという未来へ向けての展望も視点におく。さらに、科学史のなかでの諸事象の関連性の系統的な理解を通じて、これからの科学を支えてゆく知識人として当然具備すべき合理的な科学的思考の育成を図る。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	生物と人間	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 我々の身近にある「生物と人間」に関わる問題を、主として生物学の側面から解析することによって、生命現象、生物の有する機能、生物の果たしている役割、そして生物がもたらしている影響を理解し、総合的に環境・健康・福祉などの問題に取り組むための知識と能力を養う。 〈授業計画の概要〉 環境・人口・食糧の問題、遺伝子の働き、バイオテクノロジーの基礎と応用、病気とその予防、宇宙環境利用などをテーマに、持続可能な社会を学生と一緒に考える。 (オムニバス方式／全15回) (236 宮本 健助／7回) 植物学 (408 田中 良晴／8回) 動物学 動物学、植物学それぞれを専門とする生物学の専任教員2名で分担する。	オムニバス方式
	教養科目	自然環境学概論	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 自然と人間を含む生態系と環境との関わりを理解し、自然と共生する視点を持つ人材を育成する。 〈授業計画の概要〉 (オムニバス方式／全15回) (81 北宅 善昭／4回) 人間と自然の関わり・生態系の成り立ち・循環型社会の意義・共生の理念・自然再生の考え方 (137 竹中 規訓／2回) 物質循環 (264 横山 良平／2回) 再生可能エネルギー (95 小西 康裕／2回) 資源再生・資源リサイクル・廃棄物 (14 石井 実／3回) 生物多様性の重要性・緑の多様な効用・環境教育・環境学習・環境保全活動 (267 吉田 篤正／2回) 環境特性 等について解説し、さらに人間の生活空間の中で自然環境の持つ役割について、理解を深める。	オムニバス方式
	教養科目	工学研究の最先端	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 工学上の様々な視点から物事を考察することにより、最先端の工学が人間にもたらしている利便性だけでなく、それによって引き起こされる環境問題とその解決方法などを学び、正しい科学的・工学的素養を身に付けることを目標とする。 〈授業計画の概要〉 (オムニバス方式／全15回) 本講義では工学域の3学類から、それぞれの課程において取り組んでいる研究の中から、上記の目的に最もふさわしいと思われる最先端の話題を選んで講義し、工学の魅力と現状を解説する。 担当教員：工学域の講師以上の全教員の中から毎年度15名の講師を選ぶ。代表教員（教授）を1名選定する。 実施形態：毎回講師が違うオムニバス形式で集中講義を行う。	オムニバス方式 年度によって交代で担当
	教養科目	マテリアルと社会	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 人類の歴史は、物質・材料（マテリアル）を開発・利用する技術とともに展開してきた。その歴史および現代社会において、マテリアルが如何に重要な役割を果たしてきたかを理解する。さらに、エネルギーや環境などの地球規模の諸問題に対処し文明を持続させるために、今後マテリアルがどのような役割を果たすのか、どのようなマテリアルが必要とされているかを考察し、今日どのような開発・研究が行われているかを学ぶ。 〈授業計画の概要〉 (オムニバス方式／全15回) ・資源・環境負荷・リサイクル ・構造材料 ・機能材料 ・エネルギー材料 ・生体・環境材料 ・材料の信頼性・耐久性 担当教員：マテリアル工学課程の講師以上の全教員の中から毎年度7～8名の講師を選ぶ。代表教員（教授）を1名選定する。 実施形態：各講師がそれぞれテーマを選定し、複数回講義を行う。オムニバス形式で講義を行う。	オムニバス方式 年度によって交代で担当

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	海の環境と利用の科学	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 人類が海から受けてきた恩恵を考えるために、まず海洋環境について学び、地球規模の環境から、沿岸域環境にいたる様々な問題について考える。また、自然システムである「海」を利用する効率的で持続可能な様々な工学技術を学ぶ。これらを通して、環境保護と技術開発という対極的な二つの問題のバランスを、「海」を題材にして学ぶことを目標とする。 〈授業計画の概要〉 (オムニバス方式／全15回) 海洋環境、海洋資源、海洋輸送、海洋空間の利用技術 海洋システム工学に関わる基礎的な現象についての実験 海洋輸送と船舶技術、および大阪港の歴史と現状 閉鎖性海域の環境問題とその修復技術 担当教員：海洋システム工学課程の助教以上の全教員の中から毎年度7～8名の講師を選ぶ。代表教員（教授）を1名選定する。 実施形態：各講師がそれぞれテーマを選定し、複数回講義を行う。オムニバス形式で講義を行う。	オムニバス方式 年度によって交代で担当
	教養科目	社会における電気・情報・数理	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 情報工学、電気電子システム工学、数理システム工学、電子物理工学の最先端技術の紹介を通して、これらの工学分野が社会とどのようなつながりを持っているかについて学ぶことにより、これら工学分野の社会における役割を知ること目標とする。 〈授業計画の概要〉 (オムニバス方式／全15回) 情報工学(電子商取引の話、情報ネットワーク) 電気情報システム工学(エネルギーの需要と供給、環境対応技術) 数理システム工学(暗号・カーナビの原理) 電子物理工学(集積回路、液晶、有機トランジスタ、ナノテクノロジー) 担当教員：電気電子系学類の講師以上の全教員の中から毎年度7～8名の講師を選ぶ。代表教員（教授）を1名選定する。 実施形態：各講師がそれぞれテーマを選定し、複数回講義を行う。オムニバス形式で講義を行う。	オムニバス方式 年度によって交代で担当
	教養科目	社会に生きる科学	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 受講生のこれまで及びこれからの生活に自然科学が重要な役割を果たしていることを理解することと、自然科学の知識を用いて科学や技術に関する問題について考え、良識ある判断ができるようにすること。 〈授業計画の概要〉 (オムニバス方式／全15回) 高等学校で学ぶ物理・化学・生物学・地学の知識を前提として、主に理系学部の1年次生を対象として実施する。これまで高等学校で学び、これから大学でさらに深く学ぶ「自然科学」の魅力や面白さを、「自然科学が人間社会（地域・世界）とどのように関わりあい、どのように活かされているか」という観点から紹介する。現在人類は様々な問題に直面している。本講義は、受講生がこれらを理解し分析するための科学的な基礎を与え、問題に対して受講生一人一人が自ら考え、自分なりの解答を見出していくための基盤形成をめざす。 担当教員：自然科学類（物理科学・分子科学・生物科学）から1名ずつ合計3名の教員が分担して実施する。	オムニバス方式
	教養科目	からだところの科学	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 現代の身体とところの諸問題に関する医学的、社会学的双方の情報について考えられる科学リテラシーをもつようにしようというのが本講義の主要な目標です。 〈授業計画の概要〉 からだとところに関する身近なテーマ誕生、遺伝、性、血液、水、免疫、老化と死、臓器移植、麻薬と覚醒剤、アルコールと薬、ストレス、睡眠、知能、情動、犯罪について、最近のトピックスや社会現象との関わりを紹介しながら、基本的な生理システムとしての「ところ」を含めた「からだ」を多方面から取り上げ理解していきます。	
共通教育科目	教養科目	ヘルスプロモーション	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 ヘルスプロモーション（健康増進「学」）は、新しい健康観に基づく21世紀の健康戦略で「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」と定義されている。本講義では、自らの健康をコントロールし、改善するための具体的な手段や方法について、健康医科学的知見から得られた様々な処方や療法の実践について解説する。また、障がい者のヘルスプロモーションについても取り上げ、特にメンタルヘルスケアの実践に関して事例体験をふくめて総合的に論じる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	行動の生理科学	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 近年、急速な科学・技術の発展は、日常生活様式を変化させ食事内容の変化や身体活動の機会を著しく減少させている。その代償として生じた生活習慣病や様々な慢性疾患の増加は、深刻な健康問題となっている。本講義では、現代の人々の健康に関する様々な問題や課題を取り上げ、その具体的な対応について「科学的な健康づくり」においてその生理的メカニズムを探るとともに、生活科学の立場から身体活動・栄養・食生活の関連について解説する。	
共通教育科目	教養科目	行動と視機能	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 人間の視機能は、静止視力以外に動体視力、眼球運動、周辺視野、瞬間視などが相互補完的に働いている。これらの視機能によって得られた情報は、人間の行動に必要な情報の80%以上を占めており、行動を規定する上で非常に重要な役割を果たしている。本講義では研究データや行動の事例をもとに、視機能の分類、加齢による変化、運動経験との関連などについて解説し、人間の行動を視覚情報処理的側面から分析する能力を養う。	
共通教育科目	教養科目	哲学と人生	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 人間の生き方に関わる個別的問題の検討を通じて、善・価値についての多角的な視点を学ばせる。 〈授業計画の概要〉 哲学的な問題のうち、人間の生き方との関わりから善・価値の問題をとり上げて、快樂主義の意義とその問題点、自由のさまざまな意義と価値、決定論の意義、自立道徳と徳の関係、主知主義の問題点、愛の多様性と価値、といった問題を扱う。	
共通教育科目	教養科目	東洋美術史	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 中国を中心とする東アジアの様々な美術作品を歴史的視点から取り上げる。これにより東アジアが日本文化のルーツのひとつであることを確認し、東アジア文化の新たな可能性を考える。 〈授業計画の概要〉 山水画、壁画、人物画、文人画等、東アジア美術のさまざまな問題を提供し、思想・歴史・文学等の枠組みをこえて、多面的に解説する。	
共通教育科目	教養科目	ことばの意味と文化	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 ことばは、我々の精神の働きを映し出す鏡です。ことばの振る舞いを注意深く観察してみると、そこに我々の精神の営みが見えてきます。我々は、一体、自分の身の回りの世界をどのように捉え、そしてどのように理解しているのか？授業では、日本語と英語の具体例を豊富に挙げ、それらを通して見えてくる日本語の「世界」と英語の「世界」の共通点と相違点について、またそれらが何に起因するのかについても考察します。	
共通教育科目	教養科目	言語における発想と思考	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 発想のちがいによる言語表現の相違とはどのようなものか、思考と言語との関係を、さまざまな言語の具体例をあげながら多様な観点から論じる。日本語を、英語を初めとした他の言語と対照させることで、日本語の独自の発想法と、日本の思考の特色を知り、国際的舞台上で活躍する人間にとって必要な言語上の知識と考え方を、現代の対照言語学、認知言語学の成果をとり入れた上で、身につけることを目指す。あわせて、言語における慣習や規範と、言語構造の関わりについて考える。	
共通教育科目	教養科目	世界のなかの英語	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 今日の世界において、英語をなんらかの形で用いている人の数は計測不可能と言われるほど、英語の使用は拡大し続けている。Englishesと複数で表現されることもあるように、英語にも多くのバラエティが存在する。この科目では、講義形式と演習形式を織り交ぜながら、さまざまな英語の特徴を、具体的な資料を通して観察していく。英語学習者である受講者各人が持っている英語・米語についての知識と意識を、World Englishesというより広い視野の中で捉え直すことを目標とする。	
共通教育科目	教養科目	文字情報の遷移と文化	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 言語における「表現」とは何か？また、その表現はどのように遷移して行くのかを考える。具体的には、日本語に漢字がもたらされ、新たな表現形式を獲得して行った上代を中心に論じる。日本の上代は、漢字の流入だけではなく、大陸との異文化接触の先端でもあった。そうした中で、日本語の表現は、何を獲得し何を喪失していったのか。まだひらがなやカタカナが開発される以前、漢字によってのみ書記されていた日本語の表現遷移を時代を追って描出する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	アメリカの文学と社会	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 17世紀から19世紀のアメリカの文学作品をいくつか取り上げ、時代の変化・地域特性・人種の問題といったテーマに焦点をあてながら、アメリカの社会と文学の特質について理解を深めることを目指す。本講義では、まずそれぞれの作品が執筆された当時の歴史的背景を十分に踏まえ、作家が社会とどのようにかわり、そしてその状況をどのようにとらえていたかについて、できるかぎり作品を英語で読むことによって考察していく。	
共通教育科目	教養科目	ヨーロッパの多言語社会	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 EUという共同体を作ろうとしながら、個々の違いを尊重しようとする、現代ヨーロッパの言語使用の現状と問題を学ぶ。 〈授業計画の概要〉 ヨーロッパにおける多言語国家や、EUにおける多言語主義について学ぶことによって、異なる言葉話す人々が隣り合わせて暮らすヨーロッパにおいて、それぞれの言葉話す人々が、互いの意思疎通や、自分たちの言葉の独自性をどう保持しようとしているかという知識を得、ヨーロッパの多言語社会について考察する。	
共通教育科目	教養科目	地域から見たアジア史	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 古くから、都市には多くの人々が集まり住み、政治・軍事・産業・流通・情報・文化等の発信地、また結節点として、様々な機能を担ってきた。とは言え、何時でも何処でも一様な機能を持っていたというより、むしろ時代や地域によって様々な異なる、多様性に富むものであった。講義形式の本授業では、中国都市の歴史的变化を概観し、そこに時代・地域による政治や社会の違いが如何に投影されているかを考える手がかりを得ることをめざす。	
共通教育科目	教養科目	子どもの生活と健康教育	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 子ども達が幸せな社会を築くため、子どもの健康生活や発育発達に対する基礎的な知識を身につけ、子どもの成長に対する理解を深めることを目標とします。現在、少子化にもかかわらず、子どもを取り巻く様々な問題が起きており、本講義では、そのような社会状況をふまえ、子ども達の健康や健やかな成長にとって、どのような生活環境が望ましいのかについて、近年の研究知見や報告も含めながら、考察します。授業中、学生が子どもを取り巻く問題について考察できるよう、ディスカッションする形態の時間も設定します。	
共通教育科目	教養科目	ヨーロッパ文化史	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 19世紀半ばから第二次世界大戦までのドイツ語圏を中心にしたヨーロッパの文化・社会を、文学、思想、都市、環境、衛生、科学と反科学、民主主義、教育などをキーワードにしつつ、多面的に考察する。比較的多くの学生が関心を持つニーチェの著作を出発点として、その他の思想家の著作や同時代の文学作品、種々の記録文書や統計資料にも言及する。物事を多面的にとらえる力、批判的思考力を伸ばすことを目標とする。講義形式を基本とするが、質疑応答を充実させて、双方向的な展開を工夫する。	
共通教育科目	教養科目	社会と思想	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 近代西洋社会の成立にさいして、社会が経験した変化がどのようなものであったかを辿りつつ、都市の貧困問題など、そのさいに発生した様々な課題にたいし、それがどのように認識され、またどのような思想に基づいてその対応が設計され、実践されたかを辿る。このような歴史的経緯に即した理解によって、現代社会の一部となっている諸制度がどのような発想に基づいて成立し、またそれが今日どのような限界と可能性を持っているかを理解することを目的とする。	
共通教育科目	教養科目	近代日本の思想と社会	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 講義形式により、日本の近代思想を国際関係との関連を中心に解説する。19世紀後半に日本が世界市場に組み込まれ後発の近代国家として国際舞台に上るまでを日本近代の前期とし、アジアの盟主として世界史の中心的位置に立とうとして国際的な抵抗を受け、敗戦の経験から米国との安全保障条約を軸とし、冷戦後における国際的ミッションを模索する現代までを近代後期として、各時期に顕著にみられた思想的言説を通史的に整理する。日本の近代思想に独自の課題を、今日の身近な社会現象に見出す能力を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	アイデンティティと文化	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 日本がどのように自己認識を形成してきたのかをさまざまな視点から考える。まず、歴史的な流れを見ながら、とりわけ外国との関わり合いの中でどう自国意識が形成されてきた過程を見る。同時に外国の観察者がどのように日本を見てきたかををすることで、内からの視点を相対化し、自国を特殊化してみる自国中心主義を克服する可能性を考えてゆく。	
共通教育科目	教養科目	平和学の視点	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 講義形式で「平和学」成立の時代背景を解説し、人類的課題としての戦争回避と平和実現のための諸課題を整理する。さらに、戦争や内乱といった直接的暴力だけではなく、貧困や差別など間接的暴力をも含めた暴力総体の克服の必要性を解説し、バランス・オブ・パワー論に代表される国際関係論の分析視角を越え、共生可能な社会構築を目標とする平和システムについて考察する。「平和学」の視点で現代の国際関係・国内の社会現象を考察する力を養成する。	
共通教育科目	教養科目	西洋社会文化史	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 ヨーロッパの歴史や文化を宗教抜きで語ることはできない。特に西洋のキリスト教社会は、近世以降カトリック、ルター派、カルヴァン派といったいくつかの宗派に分かれることになった。宗教は一見関係なさそうな様々な分野の基礎になっており、それらは宗派ごとに独特の発展を遂げていることもある。宗教や宗派といった観点から西洋社会を俯瞰するのが狙いである。 〈授業計画の概要〉 経済や政治、科学、医療といった分野の発展に、宗教や宗派が果たした逆説的な役割を明らかにする。マックス・ウェーバーの古典的な研究の超克がめざされる。	
共通教育科目	教養科目	法と社会	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 法に関する様々な知識と情報を、法と社会の相互連関という視角から体系的に整理して、具体的に講義する。基礎的な概念の説明を実際にあつた事例で説明するなどの工夫により、初学者でも高度な知識を無理なく身につけられるように構成し、社会の中に法がどのように存在し機能しているかについての理解に導く。	
共通教育科目	教養科目	ヒトの行動と文化	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 ヒトの行動を、エソロジーにおけるヒューマンエソロジーとして位置づけ、人間理解のために、行動の生得性、適応性そして行動の系統進化といった総合的視点からアプローチをする。ここでの課題は、人間以外の生き物の文化との対比から動物との共通点を探り、種に固有な特性を追究し、人間の文化事象の特性を明らかにすることである。そして新たな視点から、人間の文化事象を見直そうとするものである。	
共通教育科目	教養科目	科学と文化	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 17世紀における近代自然科学の成立過程を検討し、単純な発明発見物語や大科学者列伝ではなく、自然現象の理解とは、自然界の法則を数学的に表現することであるという近代科学の方法論が確立した経過とその文化的背景を理解することを目指す。 〈授業計画の概要〉 宇宙論（地動説の確立）と運動論（近代運動論の確立）をテーマとする。まずアリストテレスによるこれらの理論を概観し、近代にそれが全面的に書き換えられることによって近代科学が成立する過程を検討する。	
共通教育科目	教養科目	ジェンダーと日本文化	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 文学作品を通してジェンダーの問題を考察する。 〈授業計画の概要〉 ジェンダー論の視点から文学作品を読み直す試みは、ジェンダー論者の側からのアプローチが最初であったが、現在では文学研究者の側からも、あらゆる国のあらゆる時代の文学を対象におこなわれ始めている。この講義では日本の文学作品を取り上げ、作品をジェンダー論の視点から読むことによって、学生自身がジェンダーの問題に取り組む契機とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	ジェンダーとヨーロッパ文化	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 ヨーロッパでは「医者」「教授」「弁護士」「作家」などは長い間、男性の職業とみなされてきた。女性がこの職業分野に進出するのは、19世紀以降である。その中でも「作家」を取り上げ、フランスにおいて女性職業作家が誕生する過程を考察する。どのような女性がどのような作品を生み出したのか、その生涯と作品を追うと同時に、男性中心の文壇で、女性作家がどのような評価を受けたのかをジェンダーの視点から分析する。授業ではまず、「女性作家」と「女流作家」の違いを考察した後、ジャンリス夫人（国王ルイ・フィリップの養育掛）、デルフィーヌ・ド・ジラルダン（女性ジャーナリストの草分け）、フロラ・トリスタン（労働者階級の作家）を取り上げ、「女性・文学・社会・労働」といった現在にも通用する普遍的なテーマを掘り下げていく。	
共通教育科目	教養科目	キャリアと実践	〈授業形態〉 講義および実習 〈授業目標および授業計画の概要〉 複雑化した現代を生き抜くための力を育成するために、議論における論理の必要性について、思考とは何か、考えることと論理との関係を、議論の実際をも視野に入れながら、講義を通じて学習させ、議論と思考に必要な技法についても学習させた上で、ディベートを中心にした実習を通じて、実践的な思考リテラシーを身につけさせる。	講義 16時間 実習 28時間
共通教育科目	教養科目	自己の役割とキャリア	〈授業形態〉 演習および講義 〈授業目標〉 これからの社会の構築を担いつつ、自らも質の高い人生（広義のキャリア）を生き抜くために重要な力や姿勢＝幅広い視野から自分が向き合うべき課題を見極め、多様な他者と協働しつつその課題の解決を模索していける力や姿勢の基本を育成する。 〈授業計画の概要〉 講義1回に対し、他者とのコミュニケーションや協働を取り入れた各種ワークや課題型学習を2～3回ずつ組み合わせ、自己理解や他者理解を深めると共に、大学、社会、世界等のより幅広い枠組における自らの関わりのあり方や自己の役割を考えさせる。	講義 10時間 演習 20時間
共通教育科目	教養科目	ゼミナール 人間の探究	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 思想的な書物や、美術作品などの文化的営為の読解や鑑賞、解釈などを通じて、人間の本質的性格について、またそのあるべき姿について考察する機会を提供し、テキストの購読や課題についてのレポート執筆や発表・討論などを通じて、多角的な視野を養い、自ら考える力をつける。	複数クラスで実施
共通教育科目	教養科目	ゼミナール 言語と文学	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 担当者により異なるテーマ設定のもとで、言語や文学について、その背景となる社会の諸相の理解や、科学的な検討など、新たな認識をひらく機会を提供し、テキストの購読や課題についてのレポート執筆や発表・討論などを通じて、多角的な視野を養い、自ら考える力をつける。	複数クラスで実施
共通教育科目	教養科目	ゼミナール 文化・交流・歴史	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 人間の社会には、それぞれ文化があるが、それらは人物間の交流や異文化との交流によって発展・成立してきた。そのような文化と交流を歴史的な視点から理解する機会を提供し、テキストの購読や課題についてのレポート執筆や発表・討論などを通じて、多角的な視野を養い、自ら考える力をつける。	複数クラスで実施
共通教育科目	教養科目	ゼミナール 社会の諸相	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 人間は社会的な動物と言われるように、人間は一人ではなく、社会的なつながりのなかで生きている。その社会の変化や、現代社会にひそむさまざまな問題について学ぶ機会を提供し、テキストの購読や課題についてのレポート執筆や発表・討論などを通じて、多角的な視野を養い、自ら考える力をつける。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（英語）	Academic English I A	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 アカデミックなリーディング素材を用いて、正確に内容を読み取れるようになる。 〈授業計画の概要〉 科学、テクノロジー、環境、経済、文化、心理、医療、健康など様々な学問分野からの興味深いトピックを扱いながら、英語の4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を総合的に学びつつ、主として正確に英文の内容を読み取る力を養成することに力点を置く。文章全体の構成、論理的な流れを把握する能力を養う。	複数クラスで実施

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目（英語）	Academic English I B	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 リーディング、リスニング素材を用いて、まとまった内容を理解して聞き取れるようになる。 〈授業計画の概要〉 科学、テクノロジー、環境、経済、文化、心理、医療、健康など様々な学問分野からの興味深いトピックを扱いながら、英語の4技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)を総合的に学びつつ、主としてまとまった内容を理解して聞き取る力を養成することに力点を置く。要点を聞き取り、論理的な流れを把握する能力を養う。	複数クラスで実施
	外国語科目（英語）	Academic English II A	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 リーディング素材を加味しつつ、パラグラフレベルのライティングの基礎を作る。 〈授業計画の概要〉 科学、テクノロジー、環境、経済、文化、心理、医療、健康など様々な学問分野からの興味深いトピックを扱いながら、英語の4技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)を総合的に学びつつ、主としてライティングの基礎力を養成することに力点を置く。パラグラフレベルのまとまった内容を書く能力を養う。	複数クラスで実施
	外国語科目（英語）	Academic English II B	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 モデルとなるリーディング、リスニング素材を学ぶことを通して、スピーチ、プレゼンテーションの基礎を作る。 〈授業計画の概要〉 科学、テクノロジー、環境、経済、文化、心理、医療、健康など様々な学問分野からの興味深いトピックを扱いながら、英語の4技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)を総合的に学びつつ、主としてスピーチ、プレゼンテーションの基礎力を養成することに力点を置く。	複数クラスで実施
	外国語科目（英語）	Academic English III	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 モデル的英語素材を学ぶことを通して、アカデミックなライティングとプレゼンテーションの基礎を学ぶ。 〈授業計画の概要〉 様々な学問分野からの興味深いトピックを扱いながら、主としてアカデミック・ライティングとプレゼンテーションの能力を高めることに力点を置く。自分の考えを相手に分かりやすく、論理的かつ効果的に伝える能力を養う。	複数クラスで実施
	外国語科目（英語）	Academic English IV	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 モデル的英語素材を学ぶことを通して、アカデミックな質疑やディスカッションができることを目指すライティングとプレゼンテーションの基礎を学ぶ。 〈授業計画の概要〉 Academic English IIIで学んだアカデミック・ライティングとプレゼンテーションの能力をさらに高め、聞いた内容について質問したり、議論したりすることができる双方向的なコミュニケーション力を身につけることに力点を置く。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	ドイツ語入門A	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 ドイツ語の理解に必須の知識を段階的に学ぶ。この科目では基本的知識を確実に習得することを第一の目標とし、とくに動詞と名詞のもっとも基本的な変化に慣れ、辞書をたよりにして、現在形の範囲で簡単なドイツ語を読み、理解し、書ける能力をやしなう。 ※週2コマ、8単位コース履修者向けに開講する。ドイツ語入門Bと同時に受講することを前提とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	ドイツ語初級A	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 前期「ドイツ語入門A」で現在形の基本的表現をひととおり学び終え、後期では過去形・完了形・関係代名詞など、より進んだ要素を、やはり段階的に学ぶ。1年間でドイツ語がすらすら分かるというわけではないが、この科目の最終目標は、辞書を使いつながら、本やインターネットで出会う短いドイツ語文の基本的な意味がわかるようになり、また将来ドイツ語を自立的に学ぶための素地を完成させることである。 ※週2コマ、8単位コース履修者向けに開講する。ドイツ語初級Bと同時に受講することを前提とする。	複数クラスで実施

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	ドイツ語入門B	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 ドイツ語を初めて学ぶ人が対象なので、やはり基礎的なことから始める。ペア科目「ドイツ語入門A」と違って、会話表現の中でドイツ語になじんでいくのが授業の主眼である。ネイティブの発音を聞き取り、口頭で対話的表現を繰り返して、単語と表現を覚え、実践的応用に向けて準備する。そして、音声を交えて、およそ150語の範囲で簡単な自己紹介や生活場面での質問・回答ができるようになるのが、この授業の目標である。 ※週2コマ、8単位コース履修者向けに開講する。ドイツ語入門Aと同時に受講することを前提とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	ドイツ語初級B	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 「ドイツ語入門B」に続いて、その蓄積を活かし、もうすこし高度な表現に進む。すなわちホテルの予約や買い物の場面、ときには歴史的・文化的话题を交えた会話など、前期よりも多様な状況設定において、単語と表現を駆使できるようにする。「ドイツ語初級B」と平行して学び、1年間で総合的な能力としてドイツ語検定（ドイツ語検定協会）の4級レベルへ到達することが目標である。 ※週2コマ、8単位コース履修者向けに開講する。ドイツ語初級Aと同時に受講することを前提とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	ドイツ語入門I	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 ドイツ語の入門である。まずつづりと発音の関係を学ぶ。現在形の範囲で動詞と名詞の基本的な語尾変化に触れ、辞書の引きかたを学ぶ。会話的な練習も取り入れながら単語と慣用表現になじんでいき、実用的能力として100語程度の単語を使いこなして自己紹介をしたり、簡単な質問や回答ができること、また読解的能力として辞書の助けを借りながら短文の意味が理解できることがこの授業の目標である。 ※週1コマ、4単位コース履修者向けに開講する。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	ドイツ語入門II	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 「ドイツ語入門I」に続き、内容を発展させる。「入門II」では過去へと範囲が広がる。辞書を手引きに社会のニュースを理解し、自分の身のまわりに起こったことをドイツ語で言えるようにする。「ドイツ語入門I」と「入門II」を履修して、「ドイツ語中級」へ進むことができる。そのため「入門II」の終了時点で基本的なドイツ語の文法知識はひととおり学びおえることが目標である。総合的な能力としてはドイツ語検定5級程度が目標である。 ※週1コマ、4単位コース履修者向けに開講する。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	フランス語入門A	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 「読む・書く」能力に重点をおいた入門者向けの授業である。文の仕組みに関する知識を踏まえて、ごく短いメッセージの意味を理解できる。すでに習ったごく基礎的な単文を読んだり書いたりできる。綴りの規則を知って、文字を見てある程度発音できるようになる。 授業目標の設定は、大筋においてヨーロッパ共通参照枠のA1レベルに準拠する。 ※週2コマ、8単位コース履修者向けに開講する。 「フランス語入門B」とセットで受講した場合、実用フランス語技能検定試験の5級に合格できる程度の能力を身につけられる。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	フランス語初級A	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 「読む・書く」能力に重点をおいた初心者向けの授業である。具体的な必要事を満たすためによく使われる日常的な表現や、単純な文の意味を理解し、書くことができる。時間をかけて、辞書や参考書などの助けを借りれば、ごく簡単な短い文章を読んだり書いたりできる。 授業目標の設定は、大筋においてヨーロッパ共通参照枠のA1レベルに準拠する。 ※週2コマ、8単位コース履修者向けに開講する。 「フランス語初級B」とセットで受講した場合、実用フランス語技能検定試験の4級に合格できる程度の能力を身につけられる。	複数クラスで実施

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	フランス語入門 B	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 「聞く・話す」能力に重点をおいた入門者向けの授業である。 挨拶など日常的な応答表現を理解し、自分で使うことができる。 （承諾する、断る、お礼を言うなど）日常生活上よく出会う簡単な表現や、わかり易い短い指示を理解できる。身近な話題や、直接必要なことならば、ごく簡単な質問をすることができ、それに答えられる。 授業目標の設定は、大筋においてヨーロッパ共通参照枠のA1レベルに準拠する。 ※週 2 コマ、8 単位コース履修者向けに開講する。 「フランス語入門A」とセットで受講した場合、実用フランス語技能検定試験の 5 級に合格できる程度の能力を身につけられる。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	フランス語初級 B	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 「聞く・話す」能力に重点をおいた初心者向けの授業である。必要事を満たすためによく使われる日常的な表現や、ごく単純な文の意味を聞き取り、自分も使うことができる。身近な話題についてならば、質問ができ、それに答えることもできる。相手がゆっくりはっきり話し、助け舟を出してくれるならば、ごく簡単な会話ができる。 授業目標の設定は、大筋においてヨーロッパ共通参照枠のA1レベルに準拠する。 ※週 2 コマ、8 単位コース履修者向けに開講する。 「フランス語初級A」とセットで受講した場合、実用フランス語技能検定試験の 4 級に合格できる程度の能力を身につけられる。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	フランス語入門 I	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 フランス語を使ってごく簡単なコミュニケーションをする体験を持ち、異文化能力を身につけるきっかけとなる。さらに、フランスとフランス語圏の文化や社会について知る機会を与える。書かれた、あるいは口頭でのごく短いメッセージの意味を理解することができる。簡単な挨拶を初めとする日常的な応答表現の幾つかを理解し、ある程度自分で使うことができる。 授業目標の設定は、大筋においてヨーロッパ共通参照枠のA1 レベルに準拠する。 ※週 1 回 4 単位コースを受講する学生のために開講する。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	フランス語入門 II	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 フランス語に関するごく基本的な知識を得たうえで、それを使ってごく簡単なコミュニケーションをする。文の仕組みに関する知識を踏まえて、すでに習ったごく基礎的な単文を幾つか使うことができる。綴りの規則を知って、文字を見て発音できるようになる。日常生活上よく出会う簡単な表現や、わかりやすい簡単な指示を理解できる。身近な話題や、直接必要なことならば、ごく簡単な質問をすることができ、それに答えることもできる。 授業目標の設定は、大筋においてヨーロッパ共通参照枠のA1 レベルに準拠する。 ※週 1 回 4 単位コースを受講する学生のために開講する。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	中国語入門 A	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）中国語の発音を表すローマ字であるピンインの読み書きができる。 （２） 1 5 0 語程度の語彙を理解できる。 （３）（２）の語彙を用いて単語を組み合わせたフレーズやごく短い文を作ることができる。 〈授業計画の概要〉 ピンインの学習に引き続き、代名詞、数詞、量詞、動詞＋目的語、否定文、諾否疑問文、疑問詞疑問文など、ごく基本的な文法を学ぶ。 ※週 2 回 8 単位コースを受講する学生のために開講する。中国語入門Bと同時に受講することを前提とする。	複数クラスで実施

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	中国語初級A	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）３００語程度の語彙（中国語入門Aで学習済みの語彙１５０語を含む）を理解できる。 （２）（１）の語彙を用いて短い文を作ることができる。 〈授業計画の概要〉 反復疑問文、選択疑問文、前置詞、意志や願望を表す助動詞、可能を表す助動詞、アスペクト（完了、経験、進行、持続、趨勢），“是～的”の強調構文、補語、副詞など、基本的な文法を学ぶ。 ※週２回８単位コースを受講する学生のために開講する。中国語初級Bと同時に受講することを前提とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	中国語入門B	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）漢字にピンインがふってあれば、ゆっくりであるが正確に発音できる。 （２）中国語入門Aで学んだ語彙のうち、１００語程度の語彙を使用することができる。 （３）挨拶、感謝、謝罪、依頼などの場面において、定型的な表現を使って簡単な受け答えができる。 （４）自己紹介ができる。 〈授業計画の概要〉 ピンインの学習に引き続き、挨拶、感謝、謝罪といった定型的な表現を学んだ上で、さらに自己紹介に必要な表現を学ぶ。 ※週２回８単位コースを受講する学生のために開講する。中国語入門Aと同時に受講することを前提とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	中国語初級B	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）中国語初級Aで学んだ語彙のうち、２００語程度の語彙を使用することができる。 （２）日常生活の限定された場面において、人に簡単な質問をしたり、自分の意志を表明することができる。 〈授業計画の概要〉 買い物をする、道を尋ねる、レストランで食事をする、人と会う約束をするといったような日常生活で頻繁にありうる場面で必要な表現について、場面別に学ぶ。 ※週２回８単位コースを受講する学生のために開講する。中国語初級Aと同時に受講することを前提とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	中国語入門I	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）中国語の発音を表すローマ字であるピンインの読み書きができる。 （２）１００語程度を理解できる。 （３）（２）の１００語のうち、４０語程度を使用でき、挨拶、感謝、謝罪など定型的な表現を使える。 〈授業計画の概要〉 ピンインの学習に引き続き、挨拶、感謝、謝罪などの定型的表現を学ぶ。さらに、代名詞、動詞＋目的語、否定文、諾否疑問文など、最も基本的な文法についても学ぶ。 ※週１回４単位コースを受講する学生のために開講する。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	中国語入門II	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）２００語程度の語彙（中国語入門Iで学習済みの語彙１００語を含む）を理解できる。 （２）（１）の語彙を用いてフレーズを作ることができる。 （３）（１）の語彙のうち８０語程度を使用でき、自己紹介などあらかじめ準備した内容について発話することができる。 〈授業計画の概要〉 自己紹介などあらかじめ準備しておける定型的な表現について学ぶ。さらに、数詞、量詞、疑問詞疑問文、反復疑問文など、最も基本的な文法についても学ぶ。 ※週１回４単位コースを受講する学生のために開講する。	複数クラスで実施

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	朝鮮語入門A	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）簡単な文字が読めるようになる。 （２）200語程度の語彙が理解できる。 （３）（２）の語彙を用いて単語と助詞を組み合わせたごく短い文を作ることができる。 〈授業計画の概要〉 文字と発音の学習に続き、指定詞、存在詞、平叙文、疑問文など、ごく基本的な文法を学ぶ。 ※週２回８単位コースを受講する学生のために開講する。朝鮮語入門Bと同時に受講することを前提とする。	複数クラスで実施
	外国語科目（初修外国語）	朝鮮語初級A	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）400語程度の語彙（朝鮮語入門Aで学習済みの語彙200語を含む）が理解できる。 （２）（１）の語彙を用いて簡単な文を作ることができる。 〈授業計画の概要〉 複雑な文字の発音の学習に引き続き、指定詞、存在詞、動詞＋目的語、否定文、疑問文など、基本的な文法を学ぶ。 ※週２回８単位コースを受講する学生のために開講する。朝鮮語初級Bと同時に受講することを前提とする。	複数クラスで実施
	外国語科目（初修外国語）	朝鮮語入門B	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）文字を、ゆっくりであるが正確に発音できる。 （２）朝鮮語入門Aで学んだ語彙を使用し、現在時制を使う場面において、定型的な表現を使うことができる。 （３）自己紹介ができる。 〈授業計画の概要〉 文字と発音の学習に引き続き、語彙を200個程度覚え、語彙を適切に駆使し、自己紹介などを学ぶ。指定詞、存在詞、平叙文、疑問文など、ごく基本的な文法を学ぶ。 ※週２回８単位コースを受講する学生のために開講する。朝鮮語入門Aと同時に受講することを前提とする。	複数クラスで実施
	外国語科目（初修外国語）	朝鮮語初級B	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）語彙を約400個程度覚え、現在形や過去形の文型を用いることができる。 （２）日常生活の限定された場面において、人に簡単な質問をしたり、自分の意志を表明することができる。 〈授業計画の概要〉 現在形や過去形を用いた表現を使い自分のことについて話す・聞くことができる。指定詞、存在詞、動詞＋目的語、否定文、疑問文など、基本的な文法を学ぶ。 ※週２回８単位コースを受講する学生のために開講する。朝鮮語初級Aと同時に受講することを前提とする。	複数クラスで実施
	外国語科目（初修外国語）	朝鮮語入門I	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）簡単な文字の発音と読むことができる。 （２）100語程度の単語が理解できる。 （３）（２）の100語を使用し、簡単な挨拶、感謝などを表現することができる。 〈授業計画の概要〉 韓国語の母音・子音や文字に慣らせ、ゆっくり読めるようにする。語彙を100個程度読む、憶えることにより、ごく簡単な自己紹介ができる。 ※週１回４単位コースを受講する学生のために開講する。	複数クラスで実施

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	朝鮮語入門Ⅱ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）200語程度の語彙（入門Ⅰで学習済みの語彙100語を含む）が理解できる。 （２）現在形の文を作ることができる。 （３）自己紹介などあらかじめ準備した内容について発話できる。 〈授業計画の概要〉 母音・子音や文字に慣れ、ゆっくり読めるようになる。平叙文、疑問文など、ごく基本的な文法を学ぶ。簡単な自己紹介などあらかじめ準備しておいた定型的な表現について学ぶ。 ※週１回４単位コースを受講する学生のために開講する。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	ドイツ語中級ＡⅠ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 時事的記事・エッセー・小説の中から選ばれた文章を読んで、ドイツ語の長文を理解する能力を育てる。その際、日常生活・文化・歴史・芸術のさまざまな分野から題材を得て、ドイツ語を通じてドイツ文化へ親しんでゆくこと、ひとつのテーマを丹念に追いながら、外国語を通して問題把握につとめ、異文化理解への健全なアプローチ方を身につけるのも、この授業の目標である。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	ドイツ語中級ＡⅡ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 「ドイツ語中級ＡⅠ」を履修した人が、この科目を申請できる。これまで１年半の蓄積を活かし、学習量をこなしながら、さらにもう半年ドイツ語の読解力を養って、最終的にはさまざまな文章が、辞書と文法解説書があれば自立的に学べるようになることを目標とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	ドイツ語中級ＢⅠ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 ここでは「ドイツ語入門」や「初級」で基礎的なドイツ語の知識がマスターできたという前提で、実際の場面を多様に設定し、定型的表現ばかりでなく、１回生として得た知識を応用させながら、会話表現をもっと発展させる。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	ドイツ語中級ＢⅡ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 「ドイツ語中級ＢⅠ」を履修した人が、この科目を申請できる。前期に引きつづいて同様な目標を追うことになるが、後期はこれまでのすべての蓄積を活かし、学習量をこなしながら、日常生活のみならず、文化・歴史・芸術のさまざまな分野について、さらに高度な表現を理解し、発信する力を目指す。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	フランス語中級ＡⅠ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 「読む・書く」能力に重点をおいた初中級者向けの授業である。 まとまりのある短い文章を読むことができる。簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。 授業目標の設定は、大筋においてヨーロッパ共通参照枠のA1レベルからA2レベルに準拠する。 「フランス語中級BI」とセットで受講した場合、実用フランス語技能検定試験の4級に合格できる程度の能力を身につけられる。フランス教育省認定フランス語資格試験であるDELF A1レベルに挑戦できる。 ※原則として１年次に週２回８単位コースを受講した学生を対象とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	フランス語中級ＡⅡ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 「読む・書く」能力に重点をおいた中級者向けの授業である。 平易な文による長文の内容の大筋を理解できる。基本的文法事項全般についての十分な知識をもった上で、簡単な表現や、基本的な文を正しく書くことができる。 授業目標の設定は、大筋においてヨーロッパ共通参照枠のA2レベルに準拠する。 「フランス語中級BII」とセットで受講した場合、実用フランス語技能検定試験の3級に合格できる程度の能力を身につけられる。フランス教育省認定フランス語資格試験であるDELF A1レベルに合格できる。 ※原則として１年次に週２回８単位コースを受講した学生を対象とする。	複数クラスで実施

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	フランス語中級BⅠ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 「聞く・話す」能力に重点をおいた初中級者向けの授業である。 短い時間であれば、続けて自分の意見を述べることができ、社交的なやりとりや、短くて簡単な会話を行うことができる。 授業目標の設定は、大筋においてヨーロッパ共通参照枠のA1レベルからA2レベルに準拠する。 「フランス語中級AI」とセットで受講した場合、実用フランス語技能検定試験の4級に合格できる程度の能力を身につけられる。フランス教育省認定フランス語資格試験であるDELF A1レベルに挑戦できる。 ※原則として1年次に週2回8単位コースを受講した学生を対象とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	フランス語中級BⅡ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 「聞く・話す」能力に重点をおいた中級者向けの授業である。 慣れた状況でならば、ある程度の長さの会話を理解し、会話に参加できる。続けて自分の意見を述べるができる。 授業目標の設定は、大筋においてヨーロッパ共通参照枠のA2レベルに準拠する。 「フランス語中級AII」とセットで受講した場合、実用フランス語技能検定試験の3級に合格できる程度の能力を身につけられる。フランス教育省認定フランス語資格試験であるDELF A1レベルに合格できる。 ※原則として1年次に週2回8単位コースを受講した学生を対象とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	フランス語初級Ⅰ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 基本的な知識を使って、簡単なコミュニケーションをする。対人コミュニケーション能力を磨き、異文化間能力を身につける。さらに、フランスとフランス語圏の文化や社会についての知識を深める。 具体的な必要事項を満たすためによく使われる日常的な表現や、単純な文の意味を理解し、自分も使うことができる。身近な話題についてならば、質問をすることができ、それに答えることもできる。 授業目標の設定は、大筋においてヨーロッパ共通参照枠のA1レベルに準拠する。 ※原則として1年次に週1回4単位コースを受講した学生を対象とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	フランス語初級Ⅱ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 教室で学んだ知識を、コミュニケーションに役立つ形で使いこなすように、自分で努力できるようになる。異文化間能力を深化させる。 時間をかけて、辞書や参考書などの助けを借りれば、ごく簡単な短い文章を読んだり書いたりできる。 相手がゆっくりはっきり話してくれて、助け舟を出してくれるならば、ごく簡単な会話を行うことができる。 授業目標の設定は、大筋においてヨーロッパ共通参照枠のA1レベルに準拠する。 実用フランス語技能検定試験の4級に挑戦できる程度の能力を身につける。 ※原則として1年次に週1回4単位コースを受講した学生を対象とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	中国語中級AⅠ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （1）1年次に学んだ300語程度の語彙を使用することができる。 （2）生活、学習、旅行などの場面で、相手が配慮してくれれば、最低限の対応はできる。 〈授業計画の概要〉 日常生活及び旅行などの場面においてよく使われる表現や、それに応答するための表現を学ぶ。 また、中国語の学習を通して中国の文化についても学ぶ。 ※原則として1年次に週2回8単位コースを受講した学生を対象とする。	複数クラスで実施

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	中国語中級AⅡ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）４００語程度の語彙（中国語中級AIで学んだ３００語を含む）を使用することができる。 （２）生活、学習、旅行などの場面で、相手が配慮してくれれば、基本的な対応できる。 〈授業計画の概要〉 日常生活及び旅行などの場面においてよく使われる表現や、それに応答する表現、簡単な意見や見解を表明するための表現を学ぶ。 また、中国語の学習を通して中国の文化についても学ぶ。 ※原則として１年次に週２回８単位コースを受講した学生を対象とする。	複数クラスで実施
	外国語科目（初修外国語）	中国語中級BⅠ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）５００程度の語彙（１年次に学んだ３００語を含む）を理解できる。 （２）単文における文法事項をほぼ習得している。 〈授業計画の概要〉 各種検定試験に実際に出題された問題を使用しながら、１年次に学んだ文法事項を復習し、さらに１年次に未習であった単文の文法について学ぶ。また、各種検定試験に頻出する単語やフレーズを確実に習得するための訓練も行う。 ※原則として１年次に週２回８単位コースを受講した学生を対象とする。	複数クラスで実施
	外国語科目（初修外国語）	中国語中級BⅡ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）７００語程度の語彙（中国語中級BIで学んだ５００語を含む）を理解できる。 （２）単文における文法事項を完全に習得している。さらに一部の複文についても理解できる。 〈授業計画の概要〉 各種検定試験に実際に出題された問題を使用しながら、中国語中級BIで学んだ単文の文法を復習し、さらに中級レベルの各種検定試験問題に見られる一部の複文の文法事項についても学ぶ。また、各種検定試験に頻出する単語やフレーズを確実に習得するための訓練も行う。 ※原則として１年次に週２回８単位コースを受講した学生を対象とする。	複数クラスで実施
	外国語科目（初修外国語）	中国語初級Ⅰ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）２５０語程度の語彙（１年次に学んだ２００語を含む）を理解できる。 （２）（１）の語彙のうち１４０語程度の語彙を使用することができる。ごく短い文を作ることができる。 （３）日常生活の極めて限定された場面において、人に簡単な質問をしたり、自分の意志を表明することができる。 〈授業計画の概要〉 前置詞、意志や願望を表す助動詞、可能を表す助動詞、一部の副詞など基本的な文法を学ぶ。 また、買い物をするなど日常生活でよくある場面における典型的な表現についても学ぶ。 ※原則として１年次に週１回４単位コースを受講した学生を対象とする。	複数クラスで実施

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	中国語初級Ⅱ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）３００語程度の語彙（中国語初級Ⅰで学んだ２５０語を含む）を理解できる。 （２）（１）の語彙のうち、２００語程度の語彙を使用することができ、短い文を作ることができる。 （３）日常生活の極めて限定された場面において、人に簡単な質問をしたり、自分の意志を表明することができる。 〈授業計画の概要〉 アスペクト（完了、経験、進行、持続、趨勢），“是～的”の強調構文、補語、副詞など、基本的な文法を学ぶ。 また、レストランで食事をするなど日常生活でよくある場面における典型的な表現についても学ぶ。 ※原則として１年次に週１回４単位コースを受講した学生を対象とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	朝鮮語会話Ⅰ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）短い文章を中心にして基本的な言い方ができる。 （２）日常生活の様々な場面で、最低限の対応はできる。 〈授業計画の概要〉 日常生活及び旅行などの場面においてよく使われる表現や、それに応答するための表現を学ぶ。 挨拶や自己紹介、日常生活の表現を練習し、言えるようになる。また、言語の学習を通して韓国の文化についても学ぶ。 ※原則として１年次に朝鮮語の授業を受講した学生を対象とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	外国語科目（初修外国語）	朝鮮語会話Ⅱ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 （１）学んだ語彙や文法を使用し、会話文を作る・話すことができる。 （２）日常生活の様々な場面において基本的な対応ができる。 〈授業計画の概要〉 文字の読み書きがスラスラできるようになる。日常生活のコミュニケーション表現、例えば、買い物、食事、道を尋ねる、約束をするなど、頻繁にありうる場面、それに応答する表現や簡単な意見、見解を表明するための表現について場面別に学ぶ。韓国の文化についても学ぶ。 ※原則として１年次に朝鮮語の授業を受講し、また朝鮮語会話Ⅰを受講済みの学生を対象とする。	複数クラスで実施
共通教育科目	健康・スポーツ科学科目	健康・スポーツ科学演習Ⅰ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 演習Ⅰでは、生涯にわたり心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るために必要な知識や方法について、主としてスポーツを中心とした行動を通じて具体的、学術的に習得します。また、近未来において人間が様々な環境条件に適応し、生きるために必要な条件とは何かを、様々なスポーツ実践への取り組みを中心としながら、理解を深めることを目標とします。日常生活では適切な栄養の摂取、身体活動の実施および休養を確保し、また、健康・スポーツに関する情報に関心を持ち、健康的な生活習慣を実践します。	共同 複数クラスで実施
共通教育科目	健康・スポーツ科学科目	健康・スポーツ科学演習Ⅱ	〈授業形態〉 演習 〈授業目標および授業計画の概要〉 演習Ⅱでは、生涯にわたり心身の健康を維持し、生活習慣病や慢性疾患の予防・治療に効果的な処方・療法の基礎にスポーツ行動の科学的知見が認められていることを、実践を通じて理解しその具体的方法を習得します。また、スポーツを通じた人間の行動が文化・文明としてどのような意義を持つのかについて、将来にわたっていかにあるべきかを総合的視点から理解を深めることを目標とします。日常生活においては、適切な栄養の摂取、身体活動の実施、休養の確保につとめ、健康・スポーツに関する情報に関心を持って、健康的な生活習慣を実践を目指します。	共同 複数クラスで実施
共通教育科目	健康・スポーツ科学科目	健康・スポーツ科学概論	〈授業形態〉 講義 〈授業目標および授業計画の概要〉 概論では、生涯にわたり心身の健康を維持し、より健康的な状態を得るため、人間が様々な環境条件に適応し、生きるための必要な基礎知識について、健康科学やスポーツ文化を基調として習得し、将来にわたっていかにあるべきかを総合的視点から学びます。さらに、現代社会における健康問題を分析し、２１世紀に求められる積極的な健康の維持増進のための有用な生活デザインを確立することを目標とします。	複数クラスで実施

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	情報基礎科目	情報基礎 (情報社会と情報倫理を含む。)	〈授業形態〉 講義および演習 〈授業目標〉 大学における学習・研究活動においてコンピュータを使用するための基礎的な知識と技能を修得させる。 〈授業計画の概要〉 コンピュータやネットワークの基礎的な知識や情報倫理・セキュリティなどについて講義し理解させるとともに、現代の情報化社会に参画するのに必要な態度を習得させる。また、情報システムの基本的な操作法、文書作成、データ処理、プレゼンテーション、インターネットを活用したコミュニケーションについて、演習により習得させる。	講義 18時間 演習 12時間
専門基礎科目	理系基礎科目	基礎数学Ⅰ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 集合の表し方、命題の取り扱いの習得、数列とその極限、n次元数ベクトルと行列に関する基礎的な知識の習得、および、指数関数、対数関数、三角関数の基本的性質とその応用について習熟することを目標とする。 〈授業計画の概要〉 前半は、集合の表し方や、命題の真偽の判定や否定・対偶の取り方の解説からはじめ、数列と漸化式および数列の極限、n次元数ベクトルと行列、行列の積とその応用について講義する。後半は、三角関数、指数関数、対数関数の復習からはじめ、これらの関数の応用について解説する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	基礎数学Ⅱ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 平面ベクトル、空間ベクトル、連立1次方程式の解法、簡単な固有値問題の解法の習得と、基本的な関数の微分積分および広義積分の基本的な考え方の理解および計算方法の習得を目標とする。 〈授業計画の概要〉 前半は、平面ベクトル、空間ベクトルの復習からはじめ、空間内の平面の方程式、連立1次方程式および簡単な固有値問題の解法を解説する。後半は、三角関数、指数関数、対数関数も含めた基本的な関数の微分積分および、広義積分の考え方と基本的な計算について講義する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	数学Ⅰ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 数ベクトルと行列についての基本概念の理解と計算と連立1次方程式の行列による解法の習得を目標とする。 1変数関数の極限と連続性、微分、テイラー展開、積分、微分方程式について、基本概念の理解と基礎的な計算方法の習得を目標とする。 〈授業計画の概要〉 前半は、数ベクトル、行列の和、積、基本変形等の線形代数の概念を講義した後、連立1次方程式の行列による解法を講義する。後半は、1変数関数の微積分について基礎的な事項を解説した後、テイラー展開とその応用、簡単な微分方程式の解法などを講義する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	数学Ⅱ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 行列式と行列の固有値・固有ベクトル・対角化の概念の理解、対角化の計算の習得、2変数関数についての基本的な概念の理解および偏微分、極値問題、重積分などの基礎的な計算方法の習得を目標とする。 〈授業計画の概要〉 前半は、2次、3次の行列式の定義と計算、固有値・固有ベクトル・対角化の定義と計算方法を講義する。後半は2変数関数の微積分について、偏微分、2変数関数の極値問題、2変数のテイラーの定理、2変数関数の重積分の累次積分を用いた計算法、極座標変換を利用した計算などを中心に講義する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	解析学基礎Ⅰ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 1変数関数の微分法と積分法について高等学校で学んだ事柄を発展させ、大学で学ぶ専門分野に必要な基礎学力を修得する。 〈授業計画の概要〉 実数の基本性質について考察し、初等関数についての極限や導関数の計算法と種々の平均値の定理やテーラーの定理を学び、不定形の極限や関数の整級数展開などへ応用する。定積分の定義と微積分の基本定理を学んで、基本的な初等関数の積分の計算法を紹介した後、広義積分や曲線の長さや図形の面積などの求積へ応用する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	理系基礎科目	解析学基礎Ⅱ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 多変数関数の微分と積分(重積分)の概念の理解、多変数関数を取り扱う際の考え方や、とくに2変数関数について、基本的な概念の理解、および、偏微分、極値問題、重積分などの基礎的な計算方法の習得を目標とする。 〈授業計画の概要〉 多変数関数に関して、2変数関数を中心に、連続性、偏微分可能性、全微分可能性、連鎖定理、テーラー展開などについて講義し、それらの応用として極値問題を解説する。後半では、重積分の定義と性質、変数変換とヤコビアン、積分の応用(立体の体積や表面積の計算)について講義する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	線形代数Ⅰ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 平面および空間のベクトル、n次元数ベクトル空間、行列、1次写像の概念を理解し、行列の基本変形を用いた連立1次方程式の解法、逆行列の計算の習得、行列式の種々の計算方法の習得を目標とする。 〈授業計画の概要〉 平面および空間のベクトルからはじめ、n次元数ベクトル空間、行列、1次写像の概念を講義する。さらに行列の応用として、行列の基本変形を用いた連立1次方程式の解法や逆行列の求め方を与えるとともに、行列式を定義して、その基本的性質や計算法について講義する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	線形代数Ⅱ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 ベクトル空間における基本的な概念の理解と、主として数ベクトル空間の場合の基礎的な計算手続きの習得を目標とするとともに、行列の固有値・固有ベクトル・対角化の概念の理解と対角化の計算手続きの習得を目標とする。 〈授業計画の概要〉 ベクトル空間における、ベクトルの1次独立性、基底、次元、1次写像とその表現行列、計量ベクトル空間の正規直交基底とシュミットの直交化法について講義する。さらに、行列の固有値・固有ベクトル・対角化の概念と対角化可能判定法および対角化の手順について講義する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	微積分学Ⅰ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 1変数関数の微分法と積分法について高等学校で学んだ事柄を発展させ、大学で学ぶ専門分野に必要な基礎学力を修得する。 〈授業計画の概要〉 実数の基本性質について考察し、初等関数についての極限や導関数の計算法と種々の平均値の定理やテーラーの定理を学び、不定形の極限や関数の整級数展開などへ応用する。定積分の定義と微積分の基本定理を学んで、基本的な初等関数の積分の計算法を紹介した後、広義積分や曲線の長さや図形の面積などの求積へ応用する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	微積分学Ⅱ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 多変数関数の微分と積分(重積分)の概念の理解、多変数関数を取り扱う際の考え方や、とくに2変数関数について、基本的な概念の理解、および、偏微分、極値問題、重積分などの基礎的な計算方法の習得を目標とする。 〈授業計画の概要〉 多変数関数に関して、2変数関数を中心に、連続性、偏微分可能性、全微分可能性、連鎖定理、テーラー展開などについて講義し、それらの応用として極値問題を解説する。後半では、重積分の定義と性質、変数変換とヤコビアン、積分の応用(立体の体積や表面積の計算)について講義する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	線形数学Ⅰ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 平面および空間のベクトル、n次元数ベクトル空間、行列、1次写像の概念の理解、行列の基本変形を用いた連立1次方程式の解法や逆行列の計算、行列式の種々の計算方法の習得を目標とする。 〈授業計画の概要〉 平面および空間のベクトルからはじめ、n次元数ベクトル空間、行列、1次写像の概念を講義する。さらに行列の応用として、行列の基本変形を用いた連立1次方程式の解法や逆行列の求め方を与えるとともに、行列式を定義して、その基本的性質や計算法について講義する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	理系基礎科目	線形数学Ⅱ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 ベクトル空間における基本的な概念の理解と、数ベクトル空間と多項式空間の場合の基礎的な計算手続きの習得を目標とするとともに、行列の固有値・固有ベクトル・対角化の概念の理解と対角化の計算手続きの習得を目標とする。 〈授業計画の概要〉 ベクトル空間における、ベクトルの1次独立性、基底、次元、1次写像とその表現行列、計量ベクトル空間の正規直交基底とシュミットの直交化法について講義する。さらに、行列の固有値・固有ベクトル・対角化の概念と対角化可能判定法および対角化の手順について講義する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	常微分方程式	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 常微分方程式の解法として、変数分離法、定数変化法、記号解法、級数解法を解説する。多くの例題を通して、それぞれの解法がどのようなタイプの常微分方程式に適用可能かを理解し、一般解を求める計算方法を修得する。また、線形常微分方程式は微積分学だけでなく、線形代数とも大いに関連しているので、線形常微分方程式の解と線形代数との関連についても理解する。 〈授業計画の概要〉 以下の項目を講義する。 1. 変数分離形微分方程式の解法 2. 定数係数同次線形微分方程式の解法 3. 定数係数非同次線形微分方程式の記号解法 4. 変数係数線形微分方程式の級数解法	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	複素解析	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 複素関数の微積分について講義する。複素微分、複素積分、級数展開などを一つあるいは二つの実変数の実数値関数の微積分を復習・再確認しながら理解させ、コーシーの積分定理とコーシーの積分公式の重要性を認識させる。また、留数を実積分の計算に応用できるようにする。 〈授業計画の概要〉 以下の項目を講義する。 1. 複素数の演算とド・モアブルの定理 2. 正則性とコーシー・リーマンの関係式 3. 初等関数 4. コーシーの積分定理・積分公式 5. テイラー展開・ローラン展開 6. 留数定理とその実積分への応用	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	ベクトル解析	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 物理学によく現れるベクトルに関する微積分と空間図形に関する幾何的な性質について講義を行う。ベクトルの微分、勾配、回転など電磁気学に現れる概念を数学的に解説する。その後、線積分を解説し、ガウス、グリーン、ストークスの定理を解説し、また、曲面の曲率、面素などの幾何的な性質も解説する。 〈授業計画の概要〉 以下の項目を講義する。 1. ベクトルの微分、勾配、回転 2. 線積分の定義と運用 3. 面積分とガウス、グリーン、ストークスの定理 4. 曲面の曲率、幾何的な性質	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	偏微分方程式	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 基礎的な線形偏微分方程式として、主に空間一次元の熱方程式と波動方程式、二次元ラプラス方程式を題材とし、初期値境界値問題ではフーリエ級数、全空間の問題ではフーリエ変換を用いた解法を講義し、解を具体的に書き下せる能力を身に付けさせる。基本解の性質についても学習する。 〈授業計画の概要〉 以下の項目を講義する。 1. 偏微分方程式の導出 2. 熱方程式のフーリエ級数による解法 3. 波動方程式のフーリエ級数による解法 4. ラプラス方程式のフーリエ級数による解法 5. 基本解の性質	複数クラスで実施、年度によって交代で担当

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	理系基礎科目	フーリエ解析	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 基礎的な線形偏微分方程式の解法に用いられるフーリエ級数とフーリエ変換、並びに常微分方程式の初期値問題の解法に用いられるラプラス変換を講義する。また、フーリエ変換に関連する話題として、超関数の理論の基礎を解説し、それらの基本的な性質が理解でき、これらの計算運用を学習する。 〈授業計画の概要〉 以下の項目を講義する。 1. フーリエ級数の基本的性質 2. パーセヴァルの等式 3. フーリエ変換 4. 超関数とフーリエ変換 5. ラプラス変換	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	数値解析	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 工学における現象や問題を数理モデルとして捉え、計算機を用いて解析するには、数値解析の知識が必要不可欠である。この授業では、計算機で数理モデルを解析する際に現れる数値解析の数学的な基礎理論を理解させる。また、アルゴリズムの収束性や安定性について説明する。 〈授業計画の概要〉 以下の項目を講義する。 1. 数値計算における誤差 2. 非線形方程式の反復法 3. 連立1次方程式における直接法と反復法 4. 補間多項式 5. 数値積分、数値微分 6. 1階常微分方程式の初期値問題	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	代数学入門	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 群、環、体は純粋数学に限らず、様々な分野に応用される代数学の基礎的な概念である。群・環・体についての基本的な考え方や初歩的な計算方法を身につけることを目標とする。 〈授業計画の概要〉 群、環、体の入門的内容を扱う。群・環・体の定義にはじまり、部分群、剰余群、群の準同型・同型、イデアル、剰余環、環の準同型・同型、体の標数、有限体、体の拡大など、代数学で重要となるさまざまな概念について、身近な応用例を含む豊富な具体例を用いた解説・演習を行う。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	幾何学入門	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 点列の収束や関数の極限は「距離」という概念の上に成立していることを理解した上で、距離の概念の背後にある、位相構造と呼ばれる数学的構造へと抽象化する過程と、その必然性を、微積分学の重要な定理である「最大値・最小値の定理」や「中間値の定理」の定式化とその証明を通して理解する。 〈授業計画の概要〉 以下の項目を講義する。 1. 点列の収束と関数の極限の復習 2. 距離空間の概念の導入による極限概念の抽象化 3. 開集合の概念と位相構造の導入 4. コンパクト性と連結性 5. 最大値・最小値の定理と中間値の定理	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	統計学基礎Ⅰ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 社会科学、生物学などにおいて得られる種々のデータをどのように扱い、その結果、どのような結論が得られるかを分析するための手段として統計学は重要である。この授業では、統計学の基本的な考え方、手法を講義し、具体例を通して、データを分析する能力を養う。 〈授業計画の概要〉 最初に、データの整理、代表値、平均、分散、相関係数について講義し、次に、母集団と確率変数、代表的な離散型確率分布、連続型確率分布について講義する。また、点推定、区間推定、仮説検定に関する基礎事項について講義する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	統計学基礎Ⅱ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 「統計学基礎Ⅰ」に引き続く授業科目であり、種々の仮説検定法について講義する。データの形態、知りたいことによって、それらの方法を使い分けことが大切であり、種々の仮説検定法を確実に把握させ、実際のデータに適用できる能力を養う。 〈授業計画の概要〉 最初に、正規分布の母平均、母分散の検定、比率の検定、カイ2乗適合度検定、分割表における独立性の検定について講義し、次に、分散分析法、一元配置法、二元配置法（繰り返しのない場合、繰り返しのある場合）、乱塊法、ラテン方格法について講義する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	理系基礎科目	確率統計基礎Ⅰ	〈授業形態〉講義 〈授業目標〉統計学において用いられる基礎概念、基礎事項について例を挙げながら講義し、統計的手法を習得させる。 〈授業計画の概要〉以下の項目を講義する。 1. 度数分布表、ヒストグラム 2. データの代表値 3. 最小2乗法 4. 確率と事象 5. 条件付き確率と独立性 6. 確率変数、分布関数、確率関数、確率密度関数、確率変数の平均と分散、積率母関数 7. 2次元分布、条件付き確率密度関数、確率変数の独立性 8. 代表的な離散型確率分布	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	確率統計基礎Ⅱ	〈授業形態〉講義 〈授業目標〉統計学において用いられる基礎概念、基礎事項について例を挙げながら講義し、基本的な統計的手法を習得させる。 〈授業計画の概要〉以下の項目を講義する。 1. 代表的な連続型確率分布 2. 中心極限定理、一様乱数、正規乱数 3. 推定量の不偏性、有効性、一致性 4. チェビシェフの不等式、クラメル・ラオの不等式 5. 最尤推定量、モーメント推定量 6. 正規分布の母平均、母分散の区間推定 7. 2項分布の比率の区間推定	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	図形科学	〈授業形態〉講義（適時製図演習を行う） 〈授業目標〉空間における点・直線・平面などについての正投影法の基本概念と、立体の展開・切断・相貫・陰影・斜投影・軸測投影・透視投影などの単面投影による立体の表現法を習得することにより、工学製図の基礎的素養を培うことを目標とする。 〈授業計画の概要〉平面図形、立体図形、工学製図の3項目について講義する。各項目の講義内容は下記の通り。 平面図学：直線と円弧、円錐曲線 立体図学：投影、点および直線、平面、切断、展開、斜投影、軸測投影、透視投影 工学製図：製図の基礎、製図演習	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	物理学A	〈授業形態〉講義 〈授業目標〉ニュートン力学の学習を通じて、物理現象を数学の言葉で表現するための基礎的な力を養い、物理学全体を貫く基礎概念（エネルギー・運動量・角運動量とこれらの保存則）を習得させる。 〈授業計画の概要〉位置・速度・加速度を定義し、運動の3法則を説明する。運動方程式による典型的運動の取り扱いを説明した後、仕事と運動エネルギー、保存力と位置エネルギー、角運動量と力のモーメント、それぞれの関係を明らかにする。また、エネルギー・運動量・角運動量保存則を導き、身の回りの自然現象との関係について説明する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	物理学AⅠ	〈授業形態〉講義 〈授業目標〉ニュートン力学の体系的学習を通じて、これを様々な専門分野を理解するための基礎として活用できるようにする。特に「物理学AⅠ」では、一個の質点の運動法則への理解を深めてもらう。 〈授業計画の概要〉質点運動の数学的表現方法と運動の3法則を説明する。運動方程式による典型的運動の取り扱いを説明した後、保存力、位置エネルギー、運動エネルギー、運動量、角運動量など、基本的物理量間の種々の関係式、保存則を基本法則から導く。また、これらの法則から様々な物理現象が理解できることを示す。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	物理学AⅡ	〈授業形態〉講義 〈授業目標〉ニュートン力学の体系的学習を通じて、これを様々な専門分野を理解するための基礎として活用できるようにする。特に「物理学AⅡ」では、質点系の運動法則への理解を深めてもらう。 〈授業計画の概要〉質点集団の取り扱いにおける重心・相対座標の分離という観点の重要性を強調しながら重心・相対運動の方程式を導出する。また、運動エネルギー、運動量、角運動量の各種保存則と絡めて集団運動の特徴を示す。さらに、剛体運動の基礎方程式、回転座標系などの非慣性系における運動の記述法についても説明する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	理系基礎科目	物理学B	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 電磁気学で中心となる電場と磁場の概念、および電場・磁場の振る舞いを記述する基本方程式であるマクスウェル方程式の物理学的な意味を理解してもらう。 〈授業計画の概要〉 まず、クーロンの法則を基に電場・電位を定義する。電場を記述するガウスの法則を導き、導体・誘電体の電気的性質を説明する。次に、電流が作る磁場をアンペールの法則として定式化し、磁性体作り出す磁場を説明する。さらに、電場・磁場が時間的に変化する場合の法則をマクスウェル方程式として定式化し、その物理学的描像を明らかにする。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	物理学C	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 熱力学において重要な熱・温度・エントロピー・自由エネルギー等の概念を理解させ、不可逆変化・相転移などの基本的な熱現象が熱力学の基本法則を基に記述できることを理解させる。 〈授業計画の概要〉 熱力学第1法則を説明し、理想気体を例に種々の状態量間の関係を導く。次に、熱力学第2法則と不可逆変化との関係について説明する。エントロピーと自由エネルギーの概念を導入し、各種条件下において熱力学的変化が進む方向が理解できることを示す。また、相転移現象や気体分子運動論についても言及する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	物理学I	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 身近な力学現象を通して、ニュートン力学の概念を理解する。物理現象を数学の言葉で表現するための基礎的な力を養い、物理学全体を貫く基礎概念（エネルギー・運動量・角運動量とこれらの保存則など）を習得させる。 〈授業計画の概要〉 質点の力学を通して、力学の基本物理量である力、速度、加速度、運動量、角運動量、エネルギーの理解に重点をおく。エネルギー・運動量および角運動量の保存則を導き、身の回りの自然現象との関係について説明する。また、微分・積分学など物理学に必要な数学的取り扱いの初歩に習熟することを目指す。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	物理学II	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 電磁気学で中心となる静電場と静磁場の概念、および電場・磁場の振る舞いを記述するマクスウェル方程式の物理学的な意味を理解させる。 〈授業計画の概要〉 クーロンの法則を基に電場・電位を定義し、電場を記述するガウスの法則を導く。そして、導体・誘電体の電気的性質を説明する。続いて、電流が作る磁場をビオ・サバールの法則、アンペールの法則として定式化する。そして磁性体を作る磁場を説明する。更に、時間的に変動する電場・磁場の法則をマクスウェル方程式として定式化し、その物理学的描像を明らかにする。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	物理学実験	〈授業形態〉 実験・講義 〈授業目標〉 基本的な実験装置の操作を習得させ、実験を通して自然科学の基本法則をより深く理解させる。また、得られた測定値を適切に処理・評価する方法、及び、実験結果を他者に伝達する技術を身に付けさせる。 〈授業計画の概要〉 力学、光学、電磁気学の分野から、各回一つのテーマで実験を行ってもらう。また、誤差論、実験データ処理方法、レポートの書き方などについて講義する回を設けるとともに、必要に応じて、実験テーマの背景となる理論についても解説を行う。	共同 実験 48時間 講義 12時間 複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	物理学演習	〈授業形態〉 演習 〈授業目標〉 問題演習を通じて、「物理学AⅠ」「物理学AⅡ」「物理学B」で取扱う力学・電磁気学の内容の理解を定着させ、その適用能力を高めるとともに、各専門分野へと活かせる応用力を養う。 〈授業計画の概要〉 毎回、力学・電磁気学の分野からテーマを選び、問題演習を行う。「物理学AI」等では取り扱わない、数学的にやや高度な内容を含む問題も取り上げて詳しく解説を行い、物理学的応用力とともに数学的表現・解析能力の向上を図る。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	理系基礎科目	応用物理実験	〈授業形態〉 実験 〈授業目標〉 実験を通して物理学の理解を深め、複合的かつ応用的な物理実験の方法を修得させる。さらにパソコンを用いた計測・制御・データ処理に慣れさせ、より高度な各専門分野の実験に対応できる能力を養う。また、与えられた実験条件の下で最良の結果を得、報告書としてまとめる能力を養う。 〈授業計画の概要〉 初回に全体のガイダンスを行い、以降、グループごとに異なる7テーマ（発光分光分析、電気伝導、放射線計測など）を各2週にわたって実施する。	共同 複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	解析力学	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 ニュートン力学をラグランジュ形式とハミルトン形式で表現する方法を身に付けさせ、統計力学や量子力学をより深く理解するための理論的基盤を与える。 〈授業計画の概要〉 ニュートン力学をラグランジュ形式で表現する方法について説明し、拘束条件がある場合の運動の取り扱いが容易になることを示す。さらにこれを、統計力学や量子力学にも共通する理論的記述法であるハミルトン形式へと書き換える方法について述べる。これらと共に変分法を用いた停留値問題についても適宜取り上げて、その解法を解説する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	基礎量子力学	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 不確定性原理や波動関数、エネルギー準位などの量子力学の基礎的概念を習得させ、比較的簡単な場合におけるシュレーディンガー方程式の解法を身に付けさせる。 〈授業計画の概要〉 前半では、量子力学が形成されるまでの背景として、空洞輻射とエネルギー量子の発見、光電効果と光量子仮説、ボーアの理論、物質波仮説などについて説明する。後半では、シュレーディンガー方程式を導出し、エネルギー準位、確率解釈、不確定性原理などの基礎的概念について述べ、基本的な系でのシュレーディンガー方程式の解法を説明する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	基礎統計力学	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 小正準集団、分配関数などの統計力学の基礎的概念を習得させ、統計力学の方法によって系の状態量を計算する方法を身に付けさせる。これにより、熱力学の諸概念をミクロな視点から捉え直すことができるようにする。 〈授業計画の概要〉 熱力学における基礎的概念について概観した後、気体分子運動論、マクスウェルの速度分布則、小正準集団の方法、古典調和振動子系、格子比熱等について説明する。さらに、量子統計力学におけるフェルミ分布とボーズ分布、量子調和振動子系と格子比熱についても説明する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	化学A	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 「化学A」では原子・分子レベルで物質の構造とその変化についての講義を行い、化学で必要とする物質観を養うこと。 〈授業計画の概要〉 ここでは、無機化学・物理化学の基礎知識を教えると共に、エネルギーや地球環境に係わる問題にも触れます。主な内容は、原子・分子の電子構造、原子価結合法と分子軌道法、軌道の混成、物質の状態、エンタルピーとエントロピー、反応速度、酸化還元反応、化学平衡などです。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	化学B	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 炭素を対象とした広範な学問分野である有機化学を体系的に学ばせるために、まずは全体像の的確な把握。 〈授業計画の概要〉 「化学B」では有機化学に必要な基礎概念や約束ごと、有機化合物の命名法、有機化合物の構造、官能基の性質、基礎的な合成反応などを教えて、有機化学全般にわたる基礎知識が身につくように指導します。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	化学I	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 有機化学の基本的な考え方を修得すること 〈授業計画の概要〉 有機分子の構造、分子軌道と混成軌道、共鳴理論、性質と分類、命名法、有機化学における酸と塩基について学ぶ。次いで有機反応はなぜ進行するのかを理解し、有機反応の各種活性種、有機反応と有機合成について学ぶ。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	理系基礎科目	化学Ⅱ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 分子の構造や性質および化学反応の起きるしくみを電子の状態と対応づけて理解すること 〈授業計画の概要〉 現代化学の物質観を理解するための基礎として、量子論に基づいた化学結合の理論について重点的に講義する。多様な物質の性質を原子・分子のレベルから説明することにより原理的なことから体系的に理解することに重点を置く。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	化学実験	〈授業形態〉 実験 〈授業目標〉 化学で必要とする基礎的な化学実験技術の修得、そして化学物質の危険性や安全確保、廃棄の方法等に関連する基礎知識の修得。 〈授業計画の概要〉 「安全教育」を必須として、実験テーマ：定性分析（1テーマ）、容量分析（3テーマ）、物理化学実験（5テーマ）、有機化学実験（3テーマ）の中から10テーマの実験を行います。実験ごとにレポートを提出させると共に、実験発表会（プレゼンテーション）を実施して化学に対する理解が深まるように指導します。	共同 複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	生物学Ⅰ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 生物には単細胞と多細胞のものがいるが、多細胞生物においても細胞がその構成単位となっている。本講義では、生命現象の基本単位となる細胞の基本的・共通的特性を、生体構成成分の物質的側面、遺伝子の構造と機能の側面、およびエネルギーの側面などから習得させる。 〈授業計画の概要〉 生命の起源、生体物質の構造と機能、遺伝子、生体エネルギーの産生と利用、さらにはこれらを基礎としたバイオテクノロジーの概要など、細胞・分子レベルでの内容。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	生物学Ⅱ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 生物は分子・細胞レベルでほぼ同一の原理で生命活動を営んでいるが、器官・個体レベルでは極めて多様な形態や機能を示す。生物の構造・機能と環境とを関連させながら、生命現象をマクロな側面さらには進化の側面から捉えるための知識を習得させる。 〈授業計画の概要〉 生物のもつ多様な構造と生理機能、進化の概念とその仕組み、遺伝子発現と環境、行動など、マクロ生物学の内容。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	生物学A	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 生物にはすぐれた柔軟性、復元力、行動力などが備わっている。これは、細胞を構成する個々の分子が協調しながら、また、組織・器官そして個体を構成する細胞が協調しながら機能していることによる。生物のミクロな（物質的）側面から生物に関する基礎知識と生命の概念を習得させる。 〈授業計画の概要〉 生体物質の構造と機能、生命の起源、遺伝子の構造と機能、生体エネルギーの産生と利用など、細胞・分子レベルでの内容。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	生物学B	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 生物は分子・細胞レベルでほぼ同一の原理で生命活動を営んでいるが、器官・個体レベルでは多様な形態や機能を示す。生命現象をマクロな側面から捉えるための知識を習得させる。 〈授業計画の概要〉 生物のもつ多様な構造と生理機能とその調節機構に関する内容。植物においては環境との相互作用を刺激の受容と応答などを中心に、動物においては恒常性に関わる神経系・内分泌系などを中心とする。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	生物学実験	〈授業形態〉 実験 〈授業目標〉 生物科学に関する実験に必要とされる基礎的技術を習得させるとともに、実験結果のまとめ方やレポート作成方法について学習させる。 〈授業計画の概要〉 光学顕微鏡の操作技術習得に基づく細胞・組織レベルでの構造観察、解剖学実験に基づく組織・器官レベルでの形態・機能の解析、飼育・交配技術の習得に基づく遺伝現象の実験的解明、無菌操作技術の習得に基づく微生物学実験、生体構成成分の分析法など。	共同 複数クラスで実施、年度によって交代で担当

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	理系基礎科目	生物・化学入門	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 高等学校の生物や化学を履修してこなかった文系学生を対象として、我々の身の回りの社会・生活の中に生物学あるいは化学に関係する事柄が数多く存在することを実例をもとに説明することによって、生物・化学に関する興味と基礎的な知識を養うこと。 〈授業計画の概要〉 本講義では生命の起源・細胞の構造と分裂・遺伝子の発現・ホルモン、空気・水・オゾン層・次世代エネルギーなどを取り上げて、持続可能な社会について学生と一緒に考える。	共同 複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	地球システム科学	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 地震や火山活動など様々な地殻変動を引き起こす地球表層部を覆うプレートの運動の主要な舞台である海洋域に焦点を当て、地球科学の将来果たすべき役割を考慮しつつ、プレートテクトニクスの基礎事項について解説し、地球環境を支配するシステム全体についての理解を深める。 〈授業計画の概要〉 前半は、ビッグバン、太陽系の誕生、地球の成立について解説する。後半は、中央海嶺とトランスフォーム断層、海山とホットスポット、海溝と沈み込み帯のテーマについて解説し、地球環境および地球システムについて考察する。	複数クラスで実施
専門基礎科目	理系基礎科目	地学実験	〈授業形態〉 実験 〈授業目標〉 地質調査、地質図の読み方と書き方、地形の読み方および空中写真による判読、岩石の肉眼鑑定、偏光顕微鏡による鉱物同定等の手法を習得する。 〈授業計画の概要〉 前半は、地質調査法、地質図学、地形判読について教授、実験を行う。後半は、岩石の肉眼鑑定、偏光顕微鏡に関する実験を行う。	複数クラスで実施
専門基礎科目	理系基礎科目	情報システム概論	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 問題解決の手段として情報システムを利用する上で、理解しておくべき知識を修得させる。 〈授業計画の概要〉 「情報基礎」で修得した知識を一步進め、コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの構成と機能、インターネットにおけるデータ通信のしくみ、これらの基盤の上に構築されたデータベースや情報検索技術のしくみについて理解させるとともに、インターネット社会における問題点や情報セキュリティに関する技術面および倫理面について修得させる。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	コンピュータアーキテクチャ	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの基本的な概念と動作原理を習得させる。 〈授業計画の概要〉 コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアについて、実際のコンピュータに基づいて講義する。また、コンピュータにおける計算過程およびデータ表現の基本となるビット表現について講義し、加算・減算など基本的な演算や、文字・画像など種々のメディア表現について理解させる。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	情報ネットワーク	〈授業形態〉 講義 〈授業目標〉 情報ネットワークの基本的な構造や動作原理、データ形式、情報セキュリティ技術などを習得させる。 〈授業計画の概要〉 インターネットをはじめとする実際の情報ネットワークにおいて運用されている階層型プロトコルであるTCP/IPを例に、物理層からアプリケーション層までの種々のプロトコル、データ表現、コネクション型通信、DNSなどについて習得させる。また、ファイアウォールや暗号など情報セキュリティ技術の基礎、さらにブロードバンドや光通信など最新技術についても講義する。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当
専門基礎科目	理系基礎科目	データベースと情報検索	〈授業形態〉 講義および演習 〈授業目標〉 コンピュータ上に情報を効率的に蓄積する技術（データベース）および必要な情報を検索する技術（情報検索）を習得させる。 〈授業計画の概要〉 データベースを構築するための基礎として、問題領域における構成要素間とその関係のモデル化、リレーショナル・データベースの基礎的な概念、データベース検索技術（SQL）について、演習を通して習得させる。また、インターネット上の検索エンジンや文献検索のしくみを講義し、理解させる。	複数クラスで実施、年度によって交代で担当

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 科目	理系 基礎 科目	プログラミング入門	〈授業形態〉 演習および講義 〈授業目標〉 問題解決のためのアルゴリズムおよびプログラム作成の基礎を演習により習得させる。 〈授業計画の概要〉 コンピュータを用いた問題解決のためのアルゴリズムやデータ構造の基礎とプログラミング言語の文法を習得させる。また、プログラムの編集、ライブラリの利用、コンパイル、実行、デバッグといった一連のプログラム作成過程を、課題による演習を通して習得させる。プログラミング言語は、各学類の専門性に応じたものを使用する。	演習 20時間 講義 10時間 複数クラスで実施、年度によって交代で担当